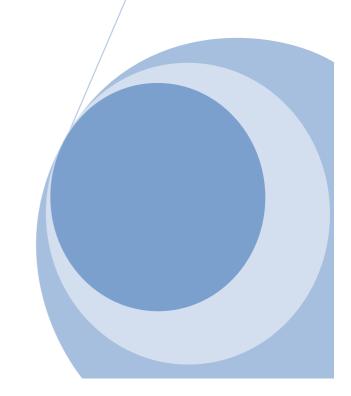


第8期 新冠町

高齢者保健福祉計画

計画期間: 令和3(2021)年度~5(2023)年度

令和3年3月 新冠町



目 次

第1草	計画の基本的事項 ・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1. 町	の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
(1)	沿革
(2)	位置と地勢
2. 計	画の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
(1)	計画策定の背景及び趣旨
(2)	法令根拠及び介護保険事業計画との関係性
(3)	計画の期間
(4)	計画の策定及び評価体制
(5)	計画の評価及び見直し
3.計	画策定の基本的視点・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
(1)	令和3年度介護保険法改正を見据えた国の動向
(2)	計画策定における視点
第2章	高齢者の現状と将来推計 ・・・・・・・・・・・・・11
1. 高	齢者の現状と推計・・・・・・・・・・・・・・・・・11
(1)	人口構造の推移
(2)	高齢者世帯状況
(3)	高齢者の受診及び疾病状況
2.要	介護者等の現状と推計・・・・・・・・・・・・・・・16
(1)	要支援・要介護者の現状と推計
(2)	認知症高齢者の現状と推計
(3)	介護給付等対象サービス及び介護保険料の現状と推計
第3章	ニーズ調査の結果から見える課題 ・・・・・・・・・・19
(1)	運動器機能と外出頻度
(2)	栄養状態と口腔機能
(3)	認知機能
(4)	社会活動及び地域活動への参加状況
(5)	心の支えの存在
(6)	健康
(7)	移動手段
(8)	将来的な生活希望と不安事項

第4章 計画の基本理念と基本目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・33
1.基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
2. 基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3 4
第5章 基本目標の実現に向けた施策展開及び目標値 ・・・・・・・・・35
基本目標1.高齢者が安心して生活を継続するための基盤整備・・・・・・35
(1)地域包括支援センターの機能充実
(2)生活を支えるサービスの展開
(3)家族介護者に対する支援の充実
(4)他機関との連携強化
(5)安心できる住まいの提供
基本目標2.認知症施策との共生による備えと安心の確保・・・・・・・47
(1)認知症の理解促進と本人発信機会への支援
(2)認知症の予防支援
(3)認知症の早期発見・早期対応の推進
(4)認知症パリアフリーと社会参加
基本目標3.高齢者の健康寿命の延伸に向けた支援の充実・・・・・・・53
(1) 介護予防・日常生活支援総合事業の推進
(2)疾病予防と健康増進施策の推進
基本目標4.高齢者の社会参加と地域の支え合いの促進・・・・・・・・・60
(1)地域における支え合い体制の構築
(2)高齢者が活躍できる場の充実
(3) 高齢者の社会参加の促進
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 集計結果 ・・・・・・・・・・・・・・65

第1章 計画の基本的事項

1. 町の概要

(1)沿革

明治2年(1869年)に蝦夷地が北海道と改称され、11ヵ国86郡が置かれた際に、この地域は、日高国新冠郡と命名されました。「にいかっぷ」の由来は、アイヌ語の「ニ・カプ」(にれの皮)に新冠の文字を当てたものと言われています。

その後、明治14年(1881年)に新冠郡高江村外10ヶ村戸長役場が高 江村に設置され、大正12年(1923年)、新冠村へ改称。昭和36年(1961年)には町制が施行され、「新冠町」となりました。

軽種馬生産育成のほか、酪農・水稲・ピーマン等の農業を基幹産業とし、発展を遂げました。

(2)位置と地勢

当町は、北海道の南部、日高地方のほぼ中央に位置し、東側は新ひだか町と丘陵性台地によって接し、西側は厚別川を境界に日高町と接しています。

北側は、『日高山脈襟裳国定公園』の主峰、幌尻岳(2,052m)を擁する 日高山脈を境界として十勝地方に連なり、南側は太平洋に面し、全体として北 東から南西にのびる帯状の行政区画となっています。

面積は、585.81k㎡で日高管内の12.2%にあたり、その約71% を山林が占めています。

年間平均気温8.4℃で夏は涼しく、また、積雪量も極端に少ないため、北海道の冬期の生活環境としては良好な条件となっています。



2. 計画の位置付け

(1)計画策定の背景及び趣旨

我が国の高齢化は急速に進行し、令和7(2025)年には、「団塊の世代(1947~49年生まれ)」が全て75歳以上になるほか、令和22(2040)年には「団塊ジュニア世代(1971~74年生まれ)」が65歳以上となり、高齢者人口はピークを迎えます。一方で、主に20歳から60歳までの「現役世代」の数は急減し、ますますの支え手不足が見込まれます。(「高齢者の急増」から「現役世代の急減」への局面変化)

当町においても令和2(2020)年1月1日時点での高齢化率は、33.3%と町民の約3分の1が65歳以上となり、これは北海道や全国の平均と比べても高い割合で、今後も伸び続けることが予想されます。

また近年、全世帯における単身高齢者世帯の割合が急速に増加しており、1 世帯当たりの介護力がますます低下するほか、今後更に「認知症」「地域からの 孤立」等の問題が深刻化するものと想定されます。

	人口割合 (高齢化率)			
	65歳以上	75歳以上		
新冠町	33.3%	17.7%		
北海道	31.7%	16.0%		
全 国	28.4%	14.6%		

※ 令和 2 (2020) 年 1 月 1 日現在

※ 新冠町 … 住民基本台帳

北海道·全国 … 北海道HP

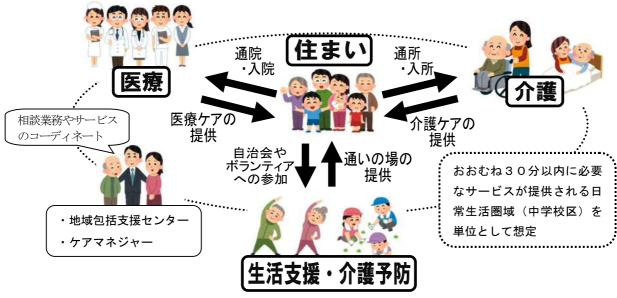
介護や医療、生活支援などのニーズが増大及び多様化する中で、潜在化する世帯単位の介護力低下や現役世代の急減による支え手(介護人材)不足などの問題にも対応すべく、高齢者が自らの能力を活かし、社会の一員として活躍できる環境や仕組づくりを進めるとともに、その先たとえ介護が必要となっても、できる限り住み慣れた地域で自分らしい生活が続けられるよう、「地域包括ケアシステム(※)」の段階的な整備が必要となります。

併せて、日常生活上の地域課題に対し、そこで暮らす住民や様々な事業者が、 世代や分野、支え手受け手という関係性を超えて、我が事として向き合い、解 決に向けて協力する「地域共生社会」の実現が求められています。 本計画は、それらの実現に向け、中長期的な視点から目指すべき基本方針を定め、段階的に施策の充実を図るための計画として位置付けるものです。

第8期高齢者保健福祉計画(以下「第8期計画」という。)では、第7期高齢者保健福祉計画(以下「第7期計画」という。)の目標や具体的施策を踏まえ、地域包括ケアシステムの整備を図るとともに、2025年や現役世代が急減する2040年の双方を念頭に定めています。

(※) 地域包括ケアシステム

地域の実情に応じて、高齢者が可能な限り住み慣れた地域でその有する能力に応じて自立した生活を営むことができるよう、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援が包括的に確保される体制



※ 厚生労働省HP 「地域包括ケアシステムの姿」の図を基に作成

(2) 法令根拠及び介護保険事業計画との関係性

本計画は、「第6次新冠町総合計画」(計画期間:令和2年度~11年度)を 上位計画とし、老人福祉法(昭和38年法律第133号)第20条の8の規定 に基づく「市町村老人福祉計画」として位置付けて策定しております。

また、介護保険法(平成9年法律第123号)第117条の規定に基づき、 日高中部広域連合において策定する「第8期介護保険事業計画」と連動した内 容となっています。

【老人福祉法 第20条の8】

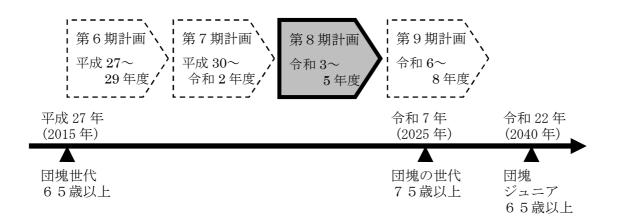
市町村は、老人居宅生活支援事業及び老人福祉施設による事業(以下「老人福祉事業」という。)の供給体制の確保に関する計画(以下「市町村老人福祉計画」という。)を定めるものとする。

【介護保険法 第117条第1項】

市町村は、基本指針に即して、三年を一期とする当該市町村が行う介護 保険事業に係る保険給付の円滑な実施に関する計画(以下「市町村介護保 険事業計画」という。)を定めるもの とする。

(3)計画の期間

本計画は、令和3年度から令和5年度までの3年間を計画期間とし、団塊ジュニア世代が65歳以上となる令和22年度までを見据えた、中長期的な視野に立った施策の展開を図ります。また、計画の最終年度である令和5年度には次期計画に向けた見直しを行います。



(4) 計画の策定及び評価体制

本計画は、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を地域把握のための基礎資料とし、高齢者保健福祉計画策定推進委員会において内容協議した上で策定しています。また、計画の素案に対する町民意見を集約する手段として、パブリックコメントを用いています。

① 新冠町高齢者保健福祉計画策定推進委員会の設置

委員会は、医療・保健・福祉関係者や被保険者代表、学識経験者で構成された委員をもって開催し、計画内容について協議検討を行いました。

【高齢者保健福祉計画策定推進委員】(敬称略)

· 医療関係者 井上 達也 (井上歯科医院 院長)

・保健関係者 渋谷 有希子 (新ひだか地域訪問看護ステーション 所長)

•福祉関係者 柳澤 良孝 (新冠町社会福祉協議会 事務局次長)

• 村上 美知子 (新冠町民生委員児童委員協議会 民生委員)

・被保険者代表 姥谷 完治 (新冠町老人クラブ連合会 会長)

· 学識経験者 高畑 信子 (新冠町社会教育委員協議会 会長)

② 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の実施

要介護状態になる前の高齢者の日常生活リスクの発生状況や社会参加 状況、それらに影響を与える要因等を把握するため、「介護予防・日常生 活圏域ニーズ調査」を実施しました。

- ・調査対象 令和2年度中に65歳以上となる方 (ただし要介護認定を受けている方は除く)
- ·調査期間 令和2年4月1日~4月20日
- ・調査方法 調査票を郵送配布し、返信用封筒または町内7ヵ所に 配置した回収箱にて回収
- · 対象者数 1,568名
- ・回答者数 1,011名
- •回答率 64.5%
- ※ 調査結果の詳細につきましては、65ページ以降参照

③ パブリックコメントの実施

計画素案に対し、町民からの幅広い意見を聴取するため、パブリックコメントを実施しました。

- ・閲覧方法等町ホームページ、保健福祉課窓口
- ・意見募集期間 令和3年1月22日(金)~2月19日(金)

(5) 計画の評価及び見直し

計画策定後も本計画の基本理念に基づき、基本目標に沿って事業展開がなされているか、1年毎に高齢者保健福祉計画策定推進委員会を開催し、事業の展開状況や進捗状況についての評価及び見直しを行います。

3. 計画策定の基本的視点

(1) 令和3年度介護保険法改正を見据えた国の動向

第7期計画期間は、地域包括ケアシステムの推進を更に深め、地域共生社会の実現に向けた体制整備のための移行期間と位置づけるとともに、介護保険制度の持続可能性の確保に向けた取り組みを進めてきました。

第8期計画期間では、上記に加え、更に以下5点を重点事項として、今後、 社会保障審議会介護保険部会で議論される見込みとなっています。

- ① 介護予防・健康づくりの推進(健康寿命の延伸)
- ② 保険者機能の強化(地域の繋がり機能・マネジメント機能の強化)
- ③ 地域ケアシステムの推進(多様なニーズに対応した介護の提供・整備)
- ④ 認知症施策の総合的な推進
- ⑤ 持続可能な制度の構築・介護現場の革新

I 介護予防・健康づくりの推進(健康寿命の延伸)

- 1. 一般介護予防事業等の推進
 - ○住民主体の通いの場の取組を一層推進
 - ・地域支援事業の他事業との連携や医療等専門職の関与による効果的な実施
 - ・通いの場の類型化を進めるともに、ポイント付与や有償ボランティアの推進等 による参加促進
 - ・通いの場に参加しない高齢者への対応
- 2. 総合事業
 - ○より効果的に推進し、地域のつながり機能を強化
 - ・事業対象者の弾力化 (要介護認定後においてもサービスの継続利用)
 - ・住民主体の多様なサービス展開に向けた担い手確保のための取り組み(有償ボランティアに係る謝金の支出、ポイント制度の創設など)
 - ・就労的活動等を通じた地域とのつながり強化等のための環境整備
- 3. ケアマネジメント
 - ○介護支援専門員がその役割を効果的に果たしながら質の高いケアマネジメント (※1) を実現できる環境を整備
 - ・他分野の専門職の知見に基づくケアマネジメント(地域ケア会議の活用)
 - ・公正中立なケアマネジメントの確保、ケアマネジメントの質の向上
- 4. 地域包括支援センター
 - ○増加するニーズに対応すべく、機能や体制を強化
 - ・センターと既存の社会資源との連携による地域の相談支援機能の強化

Ⅱ 保険者機能の強化(地域のつながり機能・マネジメント機能の強化)

- 1. PDCAプロセスの推進
 - ○保険者機能強化推進交付金の評価を活用しながら自立支援・重度化防止に向けた 実施状況の検証及び取組内容の改善
 - ・自立支援・重度化防止の取組に係る地域差の是正として、国や都道府県による 市町村へのきめ細かい支援
 - ・対応策の好事例についての見える化
- 2. 保険者機能強化推進交付金
 - ○介護予防や高齢者の活躍促進等を一層推進するため、抜本的に強化
 - ・評価指標の見直し(成果指標の拡大、配分基準のメリハリ、判断基準の明確化)
 - ・取組の達成状況の見える化の推進
- 3. データ利活用の推進
 - ○介護関連データ(要介護認定情報、介護保険レセプト情報、VISIT(※2)、
 - CHASE (※3)) の利活用のための環境整備
 - ・介護関連データの一体的活用、NDB (レセプト情報・特定健診等情報データベース)等との連結解析を進めるための制度及びシステム面での環境整備の推進

Ⅲ 地域包括ケアシステムの推進(多様なニーズに対応した介護の提供・整備)

1. 介護サービス基盤、高齢者向け住まい

【今後の介護サービスの基盤】

- ○地域の実情に応じた介護サービス基盤の整備
 - ・介護保険施設 (特別養護老人ホーム等)、認知症高齢者グループホーム、訪問介護等の在宅サービスについて、認知症など利用者の状態に応じてそれぞれの役割や機能を果たしつつ、サービス間の連携を強化
 - ・「介護離職ゼロ」の実現に向けた施設及び在宅サービスの充実

【高齢者向け住まいの在り方】

- ○有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の質を確保するため、行政による 現状把握と関与を強化
 - ・未届けの有料老人ホームへの対応や介護サービス利用の適正化
 - ・「外部の目」を入れる取り組みの推進(介護相談員(※4)等の活用)

【高齢者の住まいと生活の一体的支援の在り方】

- ・自宅と介護施設の中間的な住まい方の普及
- ・生活困窮者施策や養護老人ホームとも連携した住まいと生活の一体的支援
- 2. 医療・介護の連携

【総論】

- ・中重度の医療ニーズや看取りに対応する在宅サービスの充実
- ・リハビリテーションの適時適切な提供

【介護医療院】

○介護医療院(※5)への円滑な移行の推進

【在宅医療·介護連携推進事業】

- ○地域の実情に応じた取組の充実のための事業体系の見直し
 - ・切れ目のない在宅医療・介護の実現に関する目標の設定
 - ・一部項目の選択的実施や地域独自の項目の実施
 - ・都道府県による市町村支援(医師会等の関係機関との調整等)

IV 認知症施策の総合的な推進

- ○認知症施策推進大綱に沿った施策の推進
 - ・認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、「共生(※6)」と「予防(※7)」を両輪とする施策を推進
 - ・認知症サポーターの養成や本人発信支援等による普及啓発の推進
 - ・地域で認知症サポーター等が活躍できる仕組みづくり(チームオレンジ(※8))
 - ・高齢者の身近な場における認知症予防に資する可能性のある活動の推進
 - ・認知症予防に関するエビデンス(※9)の収集及び分析
 - ・地域包括支援センター等の相談窓口の周知
 - ・認知症カフェ、家族教室等の介護者(家族)支援及び相談機能の充実

V 持続可能な制度の構築・介護現場の革新

- ○新規人材の確保・離職の防止の双方の観点からの総合的な人材確保対策の推進
 - ・介護人材の更なる処遇改善の着実な実施
 - ・若者、潜在介護福祉士、元気高齢者等の多様な人材の参入及び活躍の促進
 - 介護の魅力向上及び発信
 - ・外国人人材の受け入れ環境の整備
 - 介護現場における業務仕分けやロボット・ICTの活用
 - ・経営の大規模化・協働化、人材確保・育成・事務処理の共同化

参考:社会保障審議会介護保険部会(令和元年12月27日)資料

※1「ケアマネジメント」

介護や支援を必要とする利用者の生活全般にわたるニーズと公私にわたる様々な社 会資源との間に立ち、福祉サービスや医療サービス等の複数のサービスを適切に結び 付け、調整を図りつつ、包括的かつ継続的にサービス提供を確保する援助方法

※2「VISIT (ビジット)」

通所・訪問リハビリテーションの質の評価データ

※3「CHASE (チェイス)」

高齢者の状態、ケア内容等データ

※4「介護相談員」

介護サービスを提供する施設や事業所に出向き、利用者の疑問や不満等を受け、介護サービス提供事業者及び行政との橋渡しをすることで、問題の改善や介護サービスの質の向上に繋げる役割を担う

※5「介護医療院」

長期的な医療と介護の両方を必要とする高齢者を対象に、日常的な医学管理や看取り (ターミナルケア)等の医療機能と、生活施設としての機能を提供する施設

※6「共生」

認知症施策推進大綱では、認知症の人が尊厳と希望を持って認知症とともに生きる、 また、認知症があってもなくても同じ社会で共に生きるという意味

※7「予防」

認知症施策推進大綱では、「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにする」という意味

※8「チームオレンジ」

地域において把握した認知症の人の悩みやその家族の身近な生活支援ニーズ等と認知症サポーターを中心とした支援者を繋ぐ仕組みであり、認知症の人と家族の困りごとを早期から継続して支援することを目的としている

※9「エビデンス」

ある症例に対して、効果があることを示す根拠

(2) 計画策定における視点

本計画は、上記の介護保険法改正を見据えた国の動向を踏まえ、国の基本指針、第6次新冠町総合計画に基づき、地域包括ケア「見える化」システムを活用した経年比較や町内の地域間比較による地域分析を行い策定します。

※地域包括ケア「見える化」システム

トップページ URL http://mieruka.mhlw.go.jp/

第2章 高齢者の現状と将来推計

1. 高齢者の現状と推計

(1) 人口構造の推移

新冠町の総人口は、昭和55年以降緩やかな減少傾向にあり、令和2(2020)年3月31日現在では、5,417名となっています。

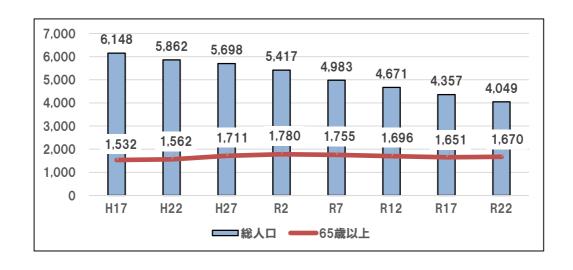
65歳以上の人口は、これまで一貫して増加傾向にありましたが、今後、前期高齢者(65~74歳)は徐々に減りはじめ、反対に後期高齢者(75歳以上)は大幅に増えることが見込まれています。

また、総人口に占める高齢者の割合(高齢化率)は伸び続け、団塊の世代が75歳以上となる令和7年以降は、35%を超える見込みとなっています。

(単位:人、%)

	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)
総人口 A	6, 148	5, 862	5, 698	5, 417	4, 983	4, 671	4, 357	4, 049
40-64 歳 B	2,004	1,961	1, 908	1, 782	1, 712	1,602	1, 469	1, 242
比率 B/A	32.6	33. 5	33. 5	32. 9	34. 4	34. 3	33. 7	30. 7
65 歳以上 C	1, 532	1, 562	1, 711	1, 780	1, 755	1, 696	1,651	1,670
65-74 歳	759	704	744	837	723	604	574	648
75 歳以上	773	858	967	943	1, 032	1,092	1,077	1,022
比率 C/A	24. 9	26. 6	30.0	32. 9	35. 2	36. 3	37. 9	41. 2

※ 平成17~令和2年 各年3月31日時点の住民基本台帳による実績値 令和7年以降 国立社会保障・人口問題研究所の数値を勘案した推計値



(2) 高齢者世帯状況

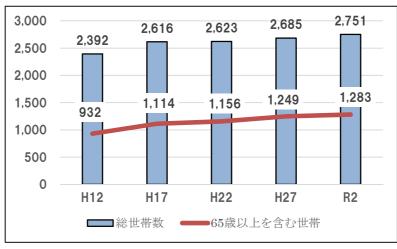
新冠町の総世帯数は、緩やかな増加傾向にあり、併せて65歳以上の方を含む世帯数も増加しています。

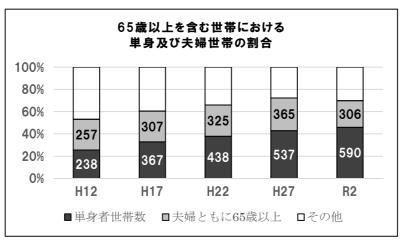
特に65歳以上の単身世帯が大幅に増加しており、65歳以上を含む世帯の46.0%(総世帯数の21.4%)を占めています。

(単位:人、%)

			H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)
	総世帯数	A	2, 392	2, 616	2, 623	2, 685	2, 751
6	65 歳以上を含む世帯数	В	932	1, 114	1, 156	1, 249	1, 283
	総世帯数に占める割合	B/A	39.0	42.6	44. 1	46. 5	46.6
	単身世帯数	С	238	367	438	537	590
	65歳以上を含む世帯に占める割合	C/B	25. 5	32.9	37.9	43.0	46. 0
	夫婦世帯数(ともに65歳以上)	D	257	307	325	365	306
	65歳以上を含む世帯に占める割合	D/B	27.6	27. 6	28. 1	29. 2	23. 9

※ 各年3月31日時点の住民基本台帳による実績値





(3) 高齢者の受診及び疾病状況

① 疾病状況

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の回答結果に基づく疾病の有病状況については、「高血圧」を患っている方が最も多く、次いで「心臓病」「目の病気」「筋骨格の病気」となっています。

前回調査時(平成29年度)と比べ、有病者100人以下の病気を除くと、「高脂血症(脂質異常)」「糖尿病」「高血圧」の有病率が上昇しています。

問7(9)現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(複数回答)

(単位:上段 人、下段 %)

項目	(上段) 人数 (下段) 割合		項目	(上段) 人数 (下段) 割合		
	R2	H29		R2	H29	
	157	115	外傷(骨折等)	38	20	
なし	15. 5	12. 3	外傷(骨折等)	3.8	2. 1	
高血圧	475	429	がん	55	38	
同皿/工	47. 0	45. 9	1 N 1 N	5. 4	4. 1	
脳卒中	41	45	血液・免疫の病気	19	17	
(脳出血や脳梗塞など)	4. 1	4.8	皿似・光授の物外	1. 9	1.8	
心臓病	162	152	うつ病	16	8	
心加較7円	16. 0	16. 3	7 77M	1.6	0.9	
糖尿病	138	116	認知症	13	4	
<i>村吉 /</i> / 7 / 7	13. 6	12. 4	(アルツハイマー病)	1. 3	0.4	
高脂血症	129	103	パーキンソン病	6	5	
(脂質異常)	12.8	11. 0	ハーインフン州	0.6	0.5	
呼吸器の病気	60	52	目の病気	144	137	
(肺炎や気管支炎など)	5. 9	5. 6	ロ Vフカ内 メレ	14. 2	14. 7	
胃腸・肝臓・胆嚢の	73	71	耳の病気 エの病気	74	66	
病気	7. 2	7. 6	中のMX	7. 3	7. 1	
腎臓・前立腺の病気	84	75	その他	58	70	
	8.3	8. 0	- C V/TIE	5. 7	7. 5	
筋骨格の病気	131	154				
(骨粗鬆症など)	13.0	16. 5				

※ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査より令和 2年度 回答者数 1,011名平成29年度 回答者数 935名

②1人あたりの年間平均医療費

1人あたりの年間平均医療費について、前期高齢者は、平成27年度 が著しく高かったものの、直近3ヵ年は約50万円で推移しています。

また、後期高齢者の医療費については、年々増加傾向にあり、前期高齢者の1人あたりの医療費と比べると倍近くになっています。

(単位:円)

	H27 年度 (2015)	H28 年度 (2016)	H29 年度 (2017)	H30 年度 (2018)	R1 年度 (2019)
前期高齢者 (65-74 歳)	604, 362	488, 443	513, 259	538, 950	526, 509
後期高齢者 (75 歳以上)	996, 789	1, 060, 537	993, 368	1, 017, 086	1, 103, 084

- ※ 前期高齢者(国保加入者のみ) 国民健康保険事業年報より
- ※ 後期高齢者 後期高齢者医療広域連合の事業概況より

③ 後期高齢者の受診の状況

後期高齢者の受診状況について、令和元年度では、1件あたりの月平均入院日数が19.5日となり、平成30年度と比べると平均1.5日長くなっています。併せて、入院や入院外(通院)にかかる医療費も増加しています。

一方で、歯科については、通院日数、医療費ともに減少傾向にあります。

(単位:日、円)

	H29 年度	£ (2017)	H30 年度	£ (2018)	R1 年度(2019)		
	1件あたり月日数	1件あたり医療費	1件あたり月日数	1件あたり医療費	1件あたり月日数	1件あたり医療費	
入院	20.5	506, 588	18.0	456, 015	19.5	480, 272	
入院外	1. 7	15, 103	1. 7	16, 494	1.8	17, 779	
歯科	2. 2	18, 905	2.4	29, 083	2. 1	17, 709	
調剤	-	15, 526	-	15, 537	-	15, 671	

※ 後期高齢者 後期高齢者医療広域連合の事業概況より

④ かかりつけ医

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の回答結果から、かかりつけ 医の有無については、「新冠町立国保診療所」が約4割を占め、前回調査 時と比べて割合が若干上昇しています。

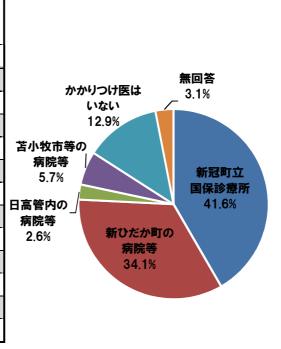
また、他市町村の病院等に在籍する医師をかかりつけ医とする方も多く、約34%が新ひだか町の病院等、約8%がおおよそ車で1時間以上掛かる病院等(新冠町や新ひだか町以外の管内医療機関及び管外医療機関)となっています。

また、前期高齢者を中心に、約1割の方は「かかりつけ医はいない」 状況となっています。(115ページ参照)

問9(1)かかりつけ医はいますか。

(単位:上段人、下段%)

	(上段)	人数
項目	(下段)	割合
	R2	H29
新冠町立国保診療	421	371
所の医師	41.6	39. 7
新ひだか町の病院	345	328
等の医師	34. 1	35. 1
日高管内(上記外)	26	35
の病院等の医師	2. 6	3. 7
苫小牧市や札幌市	58	70
等の病院等の医師	5. 7	7. 5
かかりつけ医なし	130	103
がかりつけ医なし	12. 9	11.0
無回答	31	28
無凹合 	3. 1	3. 0



※ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査より 令和 2年度 回答者数 1,011名 平成29年度 回答者数 935名

2. 要介護者等の現状と推計

(1) 要支援・要介護者の現状と推計

平成28年から令和2年までの5年間、要介護認定者数に大きな増減は見られないものの、要支援認定者数につきましては、年々増加傾向にあります。しかし、要支援認定者のうち、実際にサービスを利用する方の数は減少傾向にあり、今後に備えて認定を受けている方が増えているものと見込まれます。

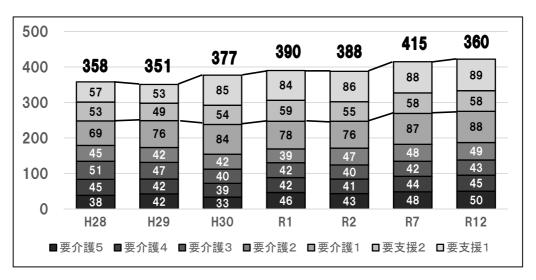
また、平均介護度につきましても、年々下降傾向にあります。

(単位:人)

	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)
事業対象者	2	0	0	0	0	_	_
要支援 1	57	53	85	84	86	88	89
要支援 2	53	49	54	59	55	58	58
事業対象者·要支援 計	112	102	139	143	141	146	147
うちサービス利用者	70	63	72	68	55	_	_
要介護1	69	76	84	78	76	87	88
要介護 2	45	42	42	39	47	48	49
要介護3	51	47	40	42	40	42	43
要介護4	45	42	39	42	41	44	45
要介護 5	38	42	33	46	43	48	50
要介護 計	248	249	238	247	247	269	275
合 計	360	351	377	390	388	415	422
平均介護度	2.01	2.04	1. 75	1.88	1.86	1.88	1. 90

※ 新冠町が保険者となっている要介護(要支援)認定者数

※ 平成28~令和2年 各年3月31日現在実績値令和7年以降 日高中部広域連合による推計



(2) 認知症高齢者の現状と推計

平成29年以降、高齢者数自体は増加傾向にありますが、認知症有病者数は減少しています。しかし、将来的に後期高齢者が増加するとの予測から、認知症有病者数は260名前後で推移する見込みとなっています。

これらのことから、今後も継続した認知症施策の充実が急務となります。

(単位:人、%)

	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)
高齢者数	1, 733	1,716	1, 730	1, 766	1, 780	1, 755	1,696
認知症有病者数	224	211	193	197	180	264	255
認知症有病率	12. 9	12. 3	11.2	11. 2	10. 1	15. 0	15. 0

※ 認知症有病者数 介護認定時の「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上

【参考:認知症高齢者の日常生活自立度】

ラン	ノク	判断基準
I		何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
п		日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが 注意していれば自立できる。
	а	家庭外で上記 II の状態が見られる。 【例】たびたび道に迷う、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
	b	家庭内でも上記 II の状態が見られる。 【例】服薬管理ができない、電話や訪問者との対応など一人で留守番できない等
Ш		日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を要する。
	а	日中を中心に上記Ⅲの状態が見られる。 【例】排泄が上手にできない、物を口の中に入れる、徘徊、失禁、大声、火の不始末、 不潔行為、性的異常行動等
	b	夜間を中心に上記皿の状態が見られる。
IV		日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を要する。【例】ランクIIIに同じ
М		著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。 【例】せん妄、興奮、自傷他害等の症状やそれに起因する問題行動が継続する状態等

※ 平成28~令和2年 各年3月31日現在

令和7年以降 厚生労働省 社会保障審議会介護保険部会(第45回)

資料「認知症有病率調査について」に基づき、認知症有病率

推定値15%を高齢者人口推定値に乗算して算出

(3) 介護給付等対象サービス及び介護保険料の現状と推計

介護保険における介護給付等サービス及び介護保険料の推計等につきまして は、日高中部広域連合で策定する「第8期介護保険事業計画」(令和3年3月3 1日発行)において示しています。

第3章 ニーズ調査の結果から見える課題

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果から見える当町が抱える課題やその要因については、以下のとおりとなります。

(1) 運動器機能と外出頻度

・運動器の機能低下と判断される人は全体の7・5% (75名)、転倒リスクが高いと判断される人は全体の9.7% (98名) に上り、特に80歳を過ぎるとその割合が高くなる傾向にあります。

問2

- (1)手すりなどを使わずに階段を上り下り ⇒ 「3. 手すりを使わなければ、上り下りで できますか きない」
- (2) 椅子に座った状態から何もつかまらず ⇒ 「3. 何かにつかまらなければ、立ち上が に立ち上がれますか れない」
- (3)15分くらい続けて歩いていますか ⇒ 「3. 歩けない」
- (4)過去1年間に転んだ経験がありますか ⇒「1.何度もある」
- (5) 転倒に対する不安は大きいですか ⇒「1. とても不安である」

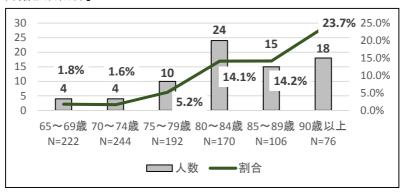
(単位:人、%)

項目	人数	割合
該当なし	716	70.8
1 問該当	167	16. 5
2問該当	53	5. 2
3 問該当	32	3. 2
4問該当	32	3. 2
全て該当	11	1. 1

計75名 **L** ※3問以上該当の場合は、厚生労働省が定める基準において「運動器の機能低下」

【3問以上該当】	N=75
年齢階級	人数
65 - 69 歳	4
70 - 74歳	4
75 - 79歳	10
80 - 84歳	24
85歳 以上	33

【年齢階級別割合】 N=75



問2

- (4)過去1年間に転んだ経験がありますか ⇒「1.何度もある」
- (5)転倒に対する不安は大きいですか ⇒ 「1. とても不安である」「2. やや不安である」

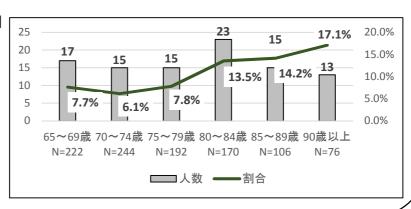
(単位:人、%)

項目	人数	割合
(4)「1.何度もある」	47	5. 0
(5)「1.とても不安である」	11	5.0
(4)「1.何度もある」	51	4. 6
(5)「2. やや不安である」	51	4. 0

計98名

【年齢階級別割合】

N = 98



・外出頻度が週1回以下、いわゆる閉じこもりと判断される人は、全体の29.9% (302名)となり、80歳以上では41.2% (145名)、90歳以上では51.3% (39名)にその傾向が見られます。

問2(6)週1回以上は外出してますか

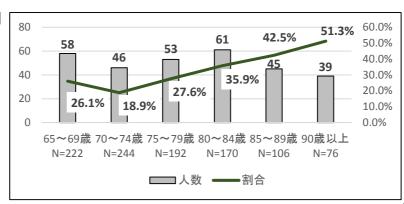
(単位:人、%)

項目	人数	割合
ほとんど外出しない	100	9. 9
週1回	202	20.0
週2~4回	429	42. 4
週5回以上	269	26.6
無回答	11	1. 1

計302名

【年齢階級別割合】

N = 302



(2) 栄養状態と口腔機能

- ・栄養状態について、低体重と判断される人は全体の4.4% (44名)、肥満と判断される人は全体の33.9% (343名)となり、低体重は年齢が高くなるほど、肥満は年齢が低くなるほど、その割合が高くなります。
- ・低体重かつ半年で体重が $2\sim3$ kg 減少した場合は、低栄養状態と判断されますが、全体の0.8% (8名) にその兆候が見られます。

問3 (1)身長と体重

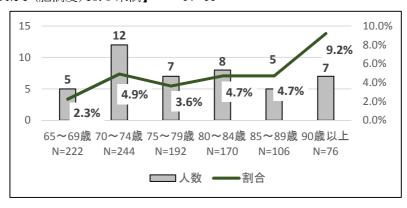
(単位:人、%)

項目	人数	割合
低 体 重 (BMI18.5 未満)	44	4. 4
普通体重(BMI18.5~25.0 未満)	559	55.3
肥 満 (BMI25.0以上)	343	33. 9
無回答	65	6. 4

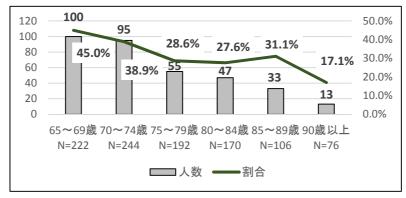
※ 44名中8名は、半年間で体重2~3kg減少

※ BMI(肥満度)とは 肥満度を測るための国際的な指標 ※ BMI(肥満度)の計算式 体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)

【BMI(肥満度)18.5 未満】 N=44



【BMI(肥満度)25.0以上】 N=343



・口腔機能の低下と判断される人は、全体の21.7% (220名) に上ります。

問3

- (2)半年前と比べて固いものが食べにくくなりましたか ⇒ 「1. はい」
- (3)お茶や汁物等でむせることがありますか ⇒ 「1. はい」
- (4)口の渇きが気になりますか ⇒「1. はい」

(単位:人、%)

項目	人数	割合
該当なし	490	48. 5
1 問該当	301	29.8
2問該当	156	15. 4
全て該当	64	6. 3

計220名

※ 2問以上該当の場合は、厚生労働省が 定める基準において「口腔機能低下」

(3) 認知機能

- ・ もの忘れが多いと感じる人は、全体の47.1%(476名)となり、前期 高齢者では38.8%(181名)、後期高齢者では54.2%(295名) の人が実感されています。
- ・ 認知症に関する相談窓口については、57.3% (579名)の人が知らないとされており、年齢階級別でも大きな差は見られませんでした。

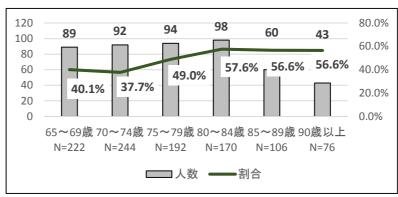
問4 (1)もの忘れが多いと感じますか

(単位:人、%)

項目	人数	割合
はい	476	47. 1
いいえ	512	50.6
無回答	23	2. 3

【年齢階級別割合】

N = 476



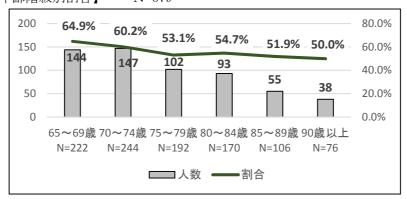
問8 (2)認知症に関する相談窓口を知っていますか

(単位:人、%)

項目	人数	割合
はい	384	38.0
いいえ	579	57.3
無回答	48	4. 7

【年齢階級別割合】

N = 579



(4) 社会活動及び地域活動への参加状況

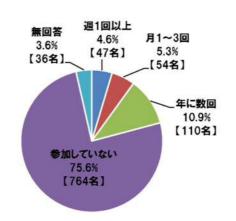
・社会活動への参加状況については、自治会活動に47.1%(476名)の人が「年に数回参加している」としているものの、その他の活動については殆ど参加していない状況となっています。

問5(1)次のような会やグループ、サークル活動などにどのくらい参加していますか。

① ボランティアのグループ

(単位:人、%)

項目	人数	割合
週4回以上	9	0.9
週2~3回以上	20	2.0
週1回	18	1.8
月1~3回	54	5. 3
年に数回	110	10. 9
参加していない	764	75. 6



② 運動関係のグループ(ゲートボールなど)

(単位:人、%)

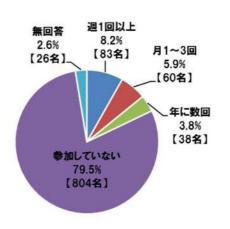
項目	人数	割合
週4回以上	15	1.5
週2~3回以上	47	4.6
週1回	25	2.5
月1~3回	22	2. 2
年に数回	38	3.8
参加していない	838	82.9



③ 趣味関係のグループ(カラオケなど)

(単位:人、%)

項目	人数	割合
週4回以上	9	0.9
週2~3回以上	27	2. 7
週1回	47	4. 6
月1~3回	60	5. 9
年に数回	38	3.8
参加していない	804	79. 5



④ 学習・教養サークル(いきいき大学含む)

(単位:人、%)

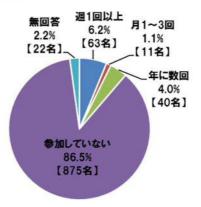
項目	人数	割合
週4回以上	3	0.3
週2~3回以上	2	0.2
週1回	13	1.3
月1~3回	26	2.6
年に数回	69	6.8
参加していない	872	86. 3



⑤ 介護予防のための通いの場(いきいき百歳体操など)

(単位:人、%)

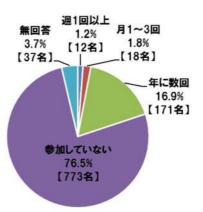
_		-
項目	人数	割合
週4回以上	7	0.7
週2~3回以上	9	0.9
週1回	47	4.6
月1~3回	11	1. 1
年に数回	40	4.0
参加していない	875	86. 5



⑥ 老人クラブ

(単位:人、%)

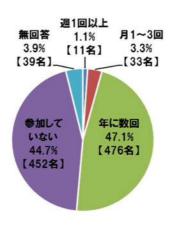
項目	人数	割合
週4回以上	1	0.1
週2~3回以上	5	0.5
週1回	6	0.6
月1~3回	18	1.8
年に数回	171	16. 9
参加していない	773	76. 5



⑦ 町内会・自治会

(単位:人、%)

項目	人数	割合
週4回以上	1	0.1
週2~3回以上	4	0.4
週1回	6	0.6
月1~3回	33	3.3
年に数回	476	47. 1
参加していない	452	44. 7



・一方で、住民が主体(企画・運営)となって行う地域づくりについては、 全体の29.0% (293名) が「ぜひ参加したい」「参加してもよい」としています。

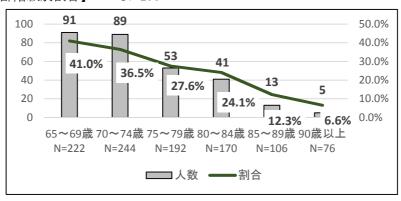
問5(3)地域住民で、健康づくりのための活動や趣味等のグループ活動を行って、地域づくりを進めるとしたら、その活動に<u>企画・運営(お世話役)</u>として参加してみたいと思いますか。

(単位:人、%)

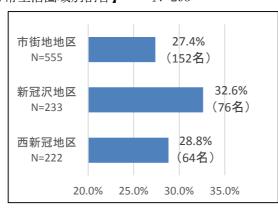
項目	人数	割合
ぜひ参加したい	13	1. 3
参加してもよい	280	27. 7
参加したくない	604	59. 7
すでに参加している	34	3. 4
無回答	80	7. 9

計293名

【年齢階級別割合】 N=293



【日常生活圈域別割合】 N=293



※ 市街地地区

本町、中央町、北星町、東町

新冠沢地区

泊津、高江、朝日、大富、万世、明和、緑丘、古岸、若園、新栄、泉 西新冠地区

節婦町、大狩部、共栄、東川、美宇、新和、太陽、里平

・就業状況について、全体の21.8%(220名)は週1回以上、お金をもらう仕事に就いていますが、仕事に就いていない人でも、その約半数は働きたい(「働きたいが、体力に自信がない」も含む)としています。

問5(1)次のような会やグループ、サークル活動などにどのくらい参加していますか。

⑧ お金をもらう仕事

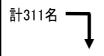
(単位:人、%)

項目	人数	割合			
週4回以上	174	17. 2	計220名	【週1回以上仕事を	_
週2~3回以上	43	4. 3			N=22
週1回	3	0.3		年齢階級	人数
月1~3回	28	2.8		65 - 69 歳	123
年に数回	48	4. 7		70 - 74 歳	66
参加していない	634	62. 7	_	75 - 79歳	21
無回答	81	8. 0		80 - 84 歳	9
				85 歳 以上	1

※ 上記設問において「参加していない」と回答した方(634名) 今後、お金をもらう仕事をしてみたいと思いますか。

(単位:人、%)

項目	人数	割合
週5日以上	12	1. 9
週3~4日であれば	23	3. 6
週1~2日であれば	27	4. 3
働きたいが、体力に自信がない	249	39. 3
働きたくない	271	42.7
無回答	52	8. 2



【働きたいと考えている人 (体力に自信がない人も含む)】

N=311

年齢階級	人数
65 - 69 歳	44
70 - 74歳	61
75 - 79歳	66
80 - 84 歳	73
85 歳 以上	67

(5) 心の支えの存在

・普段、自分の心配事や愚痴を聞いてくれる人の存在について全体の5.6% (57名)、また、病気になったときに看病してくれる人の存在について全体の9.0% (91名) は、誰もいない状況にあります。

問6

(1)あなたの心配事やグチを<u>聞いてくれる</u> 人はいますか(複数回答)

(単位:人、%)

項目	人数	割合
配偶者	483	47.8
同居の子ども	142	14. 0
別居の子ども	365	36. 1
兄弟姉妹・親戚・親・孫	300	29. 7
近所の人	148	14. 6
友人	413	40. 9
その他	28	2.8
そのような人はいない	57	5. 6

(3)あなたが病気で数日間寝込んだとき、 看病や世話をしてくれる人はいますか (複数回答)

(単位:人、%)

項目	人数	割合
配偶者	529	52. 3
同居の子ども	198	19. 6
別居の子ども	348	34. 4
兄弟姉妹・親戚・親・孫	155	15. 3
近所の人	32	3. 2
友人	73	7.2
その他	23	2. 3
そのような人はいない	91	9. 0

(6)健康

・主観的幸福感について、幸せと感じられない(幸福感「4」以下)人は、 全体の5.6%(57名)となっています。

問7(2)あなたは現在どのくらい「幸せ」ですか(10点満点で)

(単位:人、%)

項目 人数 割合 「10」 218 21.6 7.6 [9] 77 [8] 195 19.3 Г7 | 12.5 126 [6] 87 8.6

188

18.6

Г5 г

(単位:人、%)

項目	人数	割合
「4」	17	1.7
L37	21	2. 1
「2」	7	0.7
「 ₁ 」	5	0.5
L O ↑	7	0.7
無回答	63	6. 2

計57名

・うつ傾向にあると判断される人は、全体の41.2%(417名)となり、その中で心配事や愚痴を聞いてくれる人もいない状況にある人は8.4%(35名)となっています。

問7

- (3)この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになった ⇒ 「1. はい」 りすることはありますか
- (4)この1か月間、どうしても物事に興味がわかなかったり、心 ⇒ 「1. はい」 から楽しめないと感じることがよくありましたか
- (5)この1か月間、以前は楽にできていたことがおっくうに感じ ⇒ 「1. はい」 ることがありましたか
- (6)この1か月間、自分が役に立つ人間だと思えないと感じる ⇒ 「1. はい」 ことがありましたか
- (7)この1か月間、わけもなく疲れたような感じがすることがあ \Rightarrow 「1. はい」 りましたか

(単位:人、%)

項目	人数	割合
該当なし	365	36. 1
1 問該当	229	22.7
2問該当	139	13. 7
3 問該当	106	10. 5
4問該当	97	9. 6
全て該当	75	7. 4

計417名

※ 2問以上該当の場合は、厚生労働省が 定める基準において「うつ傾向」

【2問以上該当】 N=417

問6

(1)あなたの心配事やグチを聞いてくれる人はいますか

項目	人数
配偶者	153
同居の子ども	66
別居の子ども	149
兄弟姉妹・親戚・親・孫	128
近所の人	68
友人	157
その他	15
そのような人はいない	35

(7) 移動手段

・移動手段について、自分で車を運転する人は、60代では99.1%(220名)となっているものの、70代以降その割合は減り、70代で61.9%(270名)、80代で35.5%(98名)、90代以上では6.6%(5名)となっています。

問10(1)次のうち、外出する際に利用する乗り物はありますか(複数回答)

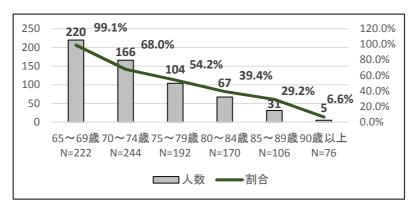
(単位:人、%)

I	(年四.八、八		
項目	人数	割合	
自転車	93	9. 2	
バイク	7	0.7	
自動車 (自分で運転)	594	58.8	
自動車 (乗せてもらう)	328	32. 4	
バス	244	24. 1	

(単位:人、%)

項目	人数	割合
電動車椅子 (カート)	4	0.4
タクシー	123	12. 2
その他	12	1.2
あてはまるものはない	10	1.0

【自動車(自分で運転)年齢階級別割合】 N=594



※1名年齢不明

(8) 将来的な生活希望と不安事項

・今後の生活不安について、「健康面」と回答した人が全体の51.4%(520名)、「認知症にならないか」と回答した人が43.7%(442名)と高い割合になっています。

また、「今後も歩けるかどうか」では全体の28.0% (283名)、「災害時に避難できるかどうか」では22.5% (227名)と約4人に1人は身体的機能面においても不安に感じている状況にあります。

問11(1)これからの生活において、不安に感じていることはなんですか(複数回答)

(単位:人、%)

(単位:人、%)

項目	人数	割合
健康に不安がある	520	51. 4
認知症にならないか	442	43. 7
頼れる人がいない	55	5. 4
生活費が足りない	129	12.8
家事ができるか	170	16.8
今後も歩けるか	283	28. 0

項目	人数	割合
災害時に避難できるか	227	22. 5
財産の管理	29	2. 9
配偶者等の家族のこと	160	15.8
その他	22	2. 2
不安に感じることはない	120	11. 9

・何か困ったときに協力してくれる(一番頼りになる)家族や親戚の居住先について、道内(日高管内以外)とする人は15.6%(158名)、道外とする人は2.7%(27名)となっており、また、協力してくれそうな家族等はいないとする人は2.4%(24名)となっていることから、合わせて5人に1人は家族等による緊急時の迅速な対応が難しい状況にあることが予測されます。

問11(2)何か困ったときに協力してくれる(一番頼りにしている)家族や親戚は、どちらにお住まいですか

(単位:人、%)

項目	人数	割合
同居している	416	41.1
新冠町内(別居している)	219	21.7
日高管内	119	11.8
道内(日高管内以外)	158	15. 6
道外	27	2. 7
国外	0	0.0
協力してくれそうな家族等はいない	24	2. 4
無回答	48	4. 7

計209名

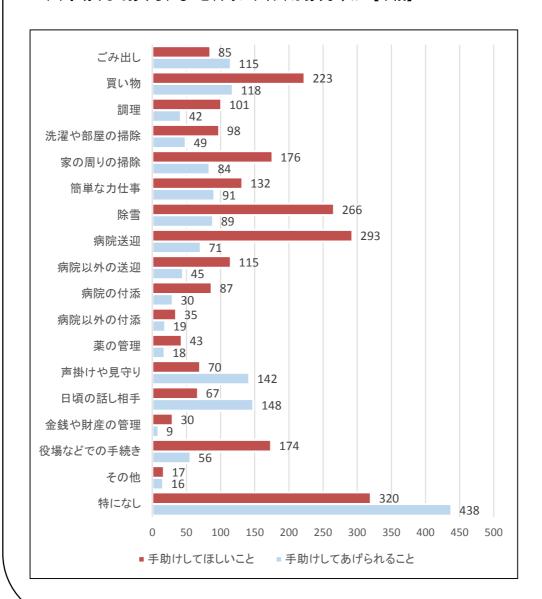
・将来、手助けが必要となると思われることについて、病院送迎が29.0%(293名)と最も多く、除雪が26.3%(266名)、買い物が23.0%(223名)と続いています。

反対に、手助けしてあげられることについては、日頃の話し相手が14. 6% (1484名) と最も多く、声掛けや見守りが14.0% (14244名)、買い物が11.8% (11844名) と続いています。

ごみ出し、声掛けや見守り、日頃の話し相手等については、手助けしてあげられる人の数の方が多く、補うことができる可能性がありますが、病院送迎、除雪、役場などでの手続き、買い物等については、手助けが必要となると思われる人の数の方が多い状況となっています。

問11

- (4) 将来、手助けしてほしいこと(手助けが必要となること) はありますか 【上段】
- (5)手助けしてあげられること(ボランティア)はありますか 【下段】



第4章 計画の基本理念と基本目標

1. 基本理念

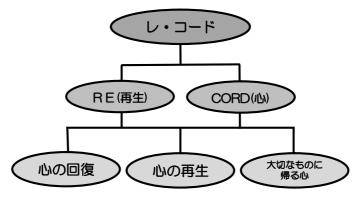
第6次新冠町総合計画では、まちづくりの将来像について、「すべての町民が健康で楽しくいきいきと暮らし、思いやりと笑顔あふれる新冠町」と定めています。

令和7 (2025) 年には、「団塊の世代」が75歳以上になり、要介護認定者が急増することが見込まれるとともに、令和22 (2040) 年には「団塊ジュニア世代」が65歳以上になり、現役世代の急減による支え手不足が予測されることを見据え、第8期計画期間中においては、それらの局面変化に対応すべく、福祉・保健・医療・地域など関係組織との連携を強化し、地域共生社会の実現に向けた基盤整備が必要となります。

これらのことから、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を含む国内の社会情勢や当町の現状及び将来推計、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から抽出された課題等を総合的に勘案し、第7期計画期間中から引き続き、高齢者の健康づくりや介護予防についての内容充実を図るとともに、高齢者自らが能力を活かし、地域社会の中でいきいきと活躍できる環境づくりとして、様々な施策に取り組んでいきます。

レ・コードと音楽によるまちづくり

第6次新冠町総合計画 まちづくり将来像 思いやりと笑顔あふれる "レ・コードなまち" にいかっぷ



※ レ・コードとは …

「レ・コード/RE・CORD」と表記し、「RE」はその頭文字からリターン(帰る)、リメンバー(思い出)、リラックス(くつろぐ)、リフレッシュ(回復)などの言葉を指し、「CORD」はラテン語で「心」という意味から、これを組み合わせた「レ・コード」は、「大切な心に帰る・心の再生」、さらには「やさしさ・いやし・ゆとり・やすらぎ」など大きな意味の広がりを持つ、当町が生み出した言葉(造語)。

2. 基本目標

基本理念及び介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果から見る課題をもとに、地域包括ケアシステムの推進、地域共生社会の実現に向けて取り組むべきこととして、下記の4つの目標を設定します。

≪ 基本目標1 ≫

高齢者が安心して生活を継続するための基盤整備

高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるためには、地域包括ケアシステムの充実が求められます。当町では、町民や地域の支援団体、福祉・介護・医療機関、行政等が連携し、地域の課題解決機能の強化推進、生活支援サービスの充実等を図るとともに、地域包括ケアシステムの中核機関である地域包括支援センターの一層の機能強化を図ります。

≪ 基本目標2 ≫

認知症との共生による備えと安心の確保

認知症の有病率は、2018年時点で高齢者の7人に1人と推測されており、誰もが成りうる身近なものとなっています。当町では、認知症の発症を遅らせたり進行を緩やかにできるよう、また、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる地域となるよう、「共生」と「予防」を念頭に置いた施策を推進します。

≪ 基本目標3 ≫

高齢者の健康寿命の延伸に向けた支援の充実

心身ともに健やかに暮らせる期間ができる限り続くためには、日頃の健康管理と元気なうちから 介護予防に取り組むことが重要です。健康に目を向け、介護予防の取組みが実践できるよう、運動 器や口腔の機能の維持向上、低栄養予防等に関するヒントを提供する等、自立支援・介護予防に関 する普及啓発を行うとともに、地域の中での自主的な介護予防活動(通いの場等)を支援します。

≪ 基本目標4 ≫

高齢者の社会参加と地域の支え合いの促進

生活ニーズが増大及び多様化する中、現役世代の急減で高齢者を支える担い手不足が懸念されます。この状況下から、町民が地域課題に「我が事」として向き合う「共生社会」の実現や元気高齢者による同世代の相互支援が求められます。社会で活躍することは介護予防にも繋がることから、ボランティアや就労活動等の社会参加を促すとともに、高齢者を支える人材確保に取り組みます。

第5章 基本目標の実現に向けた施策展開及び目標値

基本目標1. 高齢者が安心して生活を継続するための基盤整備

(1) 地域包括支援センターの機能充実

継続

事業内容

地域包括支援センターは、福祉・介護・医療等の側面から高齢者の暮らしをサポートするための拠点であり、地域包括ケアシステムの中核機関として、「① 総合相談支援業務」、「② 権利擁護業務」、「③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務」、「④ 介護予防ケアマネジメント業務」を総合的に行います。

今後の展望等

- ・高齢者の総合相談窓口として迅速な対応が図れるよう、適切な人員(主任介護支援専門員・保健師・社会福祉士)を配置します。
- ・研修会参加等により職員の相談スキルや知識の向上に努めます。

【地域包括支援センター構成員】

(単位:人)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
主任介護支援専門員	1	1	1	1	1	1
保健師	2	2	2	2	2	2
社会福祉士	1	1	1	1	1	1
合 計	4	4	4	4	4	4

※令和2年度までは実績値



① 総合相談支援業務



事業内容

高齢者の病気や怪我等が原因で生じた日常生活上の問題に対して総合的に相談に応じ、解決へと向かうよう、福祉・介護・医療関係機関等と協力しながらサポートします。

今後の展望等

・町政事務委託文書を活用し、毎月「介護つうしん」で地域包括支援センターの取組みや各種サービスについて紹介。地域包括支援センターが身近で気軽に相談できる機関であることを伝えるとともに、必要な人に必要なサービスが行き届くよう周知徹底を図ります。

【年間相談件数】 (単位:件)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
訪問による相談対応	1, 125	1, 312	1, 140	1, 300	1, 400	1, 500
来庁者への相談対応	111	158	196	250	300	350
電話による相談対応	378	743	760	800	850	900
合 計	1, 614	2, 213	2, 096	2, 350	2, 550	2, 750

※令和2年度までは実績値

※令和3年度以降は目標値または推計値

② 権利擁護業務



事業内容

高齢者が安心して生活できるように、高齢者の権利を守るための取り組みを行います。

今後の展望等

- ・認知症等で判断能力が低下し、権利擁護の観点からも成年後見制度の利用が必要な場合には、制度についての情報提供及び利用促進を図るとともに、家庭裁判所への申立申請等に係る費用の一部助成(成年後見制度利用支援事業)を行います。
- ・虐待を受けている(疑いも含む)高齢者への対応として、高齢者虐待防 止ネットワークを組織し、福祉・医療・法律の各関係機関と連携して対応 方法を協議する等の体制を整えています。
- ・虐待を未然に防ぐため、毎年講演会等を開催し、町民や介護・医療関係者の虐待防止意識の啓発を図ります。

・町民一人ひとりが自らの意思で自身の生き方を選択することの重要性を 理解し、これからの生き方を考えるきっかけとするために、「エンディング ノート」の普及啓発を図ります。

③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務



事業内容

高齢者本人や家族が必要なときに必要な支援を途切れることなく活用できるよう、社会資源をコーディネートするとともに、当町で活躍する介護支援専門員が円滑に支援できるようサポートします。

今後の展望等

・介護支援専門員が抱える困難事例をサポートすることで、直接的または 間接的に利用者支援を行います。

④ 介護予防ケアマネジメント業務



事業内容

介護保険で「要支援」、または基本チェックリストで「事業対象者」と判定された方が要介護状態にならないよう、介護予防サービス等を利用しながら自立に向けた支援(ケアマネジメント)を行います。

今後の展望等

- ・新規ケースは民間の居宅介護支援事業所に業務委託し、介護支援専門員と適宜、対応方法について協議しながら継続した支援を行います。
- ・困難ケースについては、地域包括支援センターで担当し対応します。

【年間延べ担当件数】

(単位:件)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
地域包括支援センター	68	43	28	24	24	24
民間事業所への委託分	765	732	706	749	755	760
合 計	833	775	734	773	779	784

※令和2年度までは実績値

⑤ 地域ケア会議の充実



事業内容

地域ケア会議を開催し、多職種協働による専門的視点を交えて、高齢者個人に対する支援の充実と地域の関係機関の連携強化を図るとともに、個別ケースの分析から地域に共通する課題を発見し、対策協議を重ねながら、政策に繋げる等、住民ニーズに合ったサービスの基盤整備を推進します。

機能的に実施するため、地域ケア会議を2つに分類し、概要は以下のとおりとします。

【 地域ケア個別会議 】

- ○目 的: 高齢者を取り巻く課題に対し、個別事例検討を通じて地域 に共通する課題を明らかにするとともに、多職種協働による 広い視点の中から課題解決に向けた支援方法について模索す ることを目的に開催。
- ○構成機関 : ・町内居宅介護支援事業所
 - ・町内介護保険在宅サービス事業所
 - · 町内医療機関(新冠町立国民健康保険診療所)
 - 民生委員
 - ・生活支援コーディネーター(新冠町社会福祉協議会)
 - ・地域包括支援センター

【 地域ケア推進会議 】

- ○目 的:地域ケア個別会議において明確化された地域課題に対し、 医療・介護関係機関等で情報共有し、解決に向けた既存事業 の再構築及び新たな事業の創設等について検討することを目 的に開催。
- ○構成機関 : ·居宅介護支援事業所
 - ・町内介護保険事業所(在宅サービス、施設サービス、地 域密着型サービス)
 - 町内医療機関及び町外総合病院
 - 社会福祉協議会
 - ・地域包括支援センター

今後の展望等

- ・地域ケア個別会議を通じて、高齢者を取り巻く地域課題の抽出及び解決 策の模索を行い、既存事業の見直しや新たな事業創設に繋げます。
- ・当会議を通じて、支援者同士の連携体制の構築を推進します。
- ・多職種協働による専門的視点を交え、高齢者の自立支援に資する住民ニーズに合ったサービスの基盤整備を進めます。

(単位:回、人、カッコ内 ヵ所)

地域ケア個別会議	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
開催回数	1	4	0	4	4	4
延べ出席者数	18	61	0	60	60	60

地域ケア推進会議	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
開催回数	2	1	2	2	2	2
111 左 北北 / 1466 田北八	34 (22)	20 (10)	26 (21)	30 (24)	30 (24)	30 (24)
出席者数(機関数)	31 (20)	30 (19)	23 (17)	30 (24)	30 (24)	30 (24)

※令和2年度までは実績値

※令和3年度以降は目標値または推計値

【地域ケア会議の5つの機能と役割】

(2) 生活を支えるサービスの展開

① 寿バス事業



事業内容

70歳以上を対象にバス券を交付します。高齢者の経済的負担を軽減し、 バスを利用しやすい環境をつくることで、閉じこもり防止に繋げるとともに、 各種事業や社会活動への参加を促進します。

○対象区間 : 新冠町内区間

新ひだか町(旧静内町市街地)~日高町厚賀間

○利用料:無料

今後の展望等

・平成31年度より事業の対象者を75歳以上から70歳以上へ拡充。高 齢により自動車運転免許を返納する人の増加が見込まれることから、適宜、 事業内容の見直しを図り、高齢者の移動手段を確保します。

② 移送サービス事業



事業内容

身体上または精神上の疾患等が原因で、公共 交通機関を利用して医療機関や福祉施設へ行く ことが困難な高齢者の移送支援を行います。

(新冠町社会福祉協議会に業務委託)

○利用料:無料 今後の展望等



- ・高齢者が適切な医療や福祉サービスが受けられるよう、著しく利用者が 増加した場合は、現行の車両2台体制から増車等を含め検討します。
- ・送迎担当者と連携し、利用する高齢者の状態変化について情報共有を図 り、支援を必要とする人を早期に発見し、迅速な対応に繋げます。

(単位:人)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
延べ利用者数	4, 055	4, 363	3, 790	4, 636	4, 758	4, 880
1日平均利用者数	16.6	18. 1	15. 7	19. 0	19.5	20.0

※令和2年度までは実績値

③ 緊急通報システム端末電話機設置事業



事業内容

急病や災害等の突発的な事態が発生した際の 迅速かつ正確な救援体制の整備として、緊急通 報システム端末電話機を貸与します。

○利用料:無料



今後の展望等

- ・今後も継続して、日高中部消防組合消防署新冠支署と連携し、生活不安 の解消と人命の安全確保を図ります。
- ・定期的に登録情報(緊急連絡先や協力員等)を更新し、常に最新の利用者情報を確保します。
- ・光回線の町内全域開通に合わせて、今後、緊急通報システムの在り方や 新たな可能性についても検討していきます。

(単位:件)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
端末電話機設置件数	127	136	129	131	134	137

※令和2年度までは実績値

※令和3年度以降は目標値または推計値

④ 高齢者等買い物支援事業

【実施主体:新冠町商工会】

事業内容

高齢による体力低下等が原因で、日常生活を維持するために必要な買い物が困難となっている高齢者世帯等に対し、高齢者等買い物支援事業「らくらく・にいかっぷ」を展開しています。

- ・あらかじめ電話等で受けた注文品の配達
- ・ 冷凍車での移動販売
- ・地域の見守り機能

(訪問時、高齢者に普段と違った様子が 見受けられた際は、家族や保健福祉課へ 連絡する体制)



⑤ 社会福祉振興補助金



事業内容

介護を要する高齢者が在宅生活を継続できるよう、下記項目に対して補助金を交付します。

・大規模な住宅改修

○対 象 者 : 介護保険の要介護2以上で、手すり設置や段差解消など

を必要とする高齢者

○助 成 額 : 介護保険制度の住宅改修費等の給付事業で受けた金額と

合算して上限100万円以内

・自家用福祉車両の購入または既存車両の改造費用

○対 象 者 : 介護保険の要介護2以上で、一般車両での移動が困難な

高齢者

○助 成 額 : 福祉車両購入または改造費用の2分の1(上限30万円)

(3) 家族介護者に対する支援の充実

① 家族介護者教室の開催





事業内容

在宅で高齢者を介護する家族の身体的・精神的負担の軽減を図ることを目的とした教室を開催。同じ境遇にある人同士が交流し、生活上の共感を得ることで、介護の活力に繋げるきっかけとします。

今後の展望等

- ・教室の内容は、介護疲れが少しでも解消されるよう、リラクゼーション 効果のあるものを選定し、介護に役立つ情報についても提供します。
- ・事業対象者を在宅で介護する家族としているため、介護支援専門員の協力を得て事業周知するとともに、介護疲れで限界を感じている家族を早期に発見するきっかけとします。

(単位:回、人)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
教室の開催回数	1	1	1	1	1	1
実参加者数	5	5	10	10	15	15

※令和2年度までは実績値

② 家族介護用品支給事業



事業内容

介護保険で要介護4・5の認定を受けた高齢者を在宅介護している家族に対し、介護用品(紙おむつ・尿とりパット等)と引き換えできる介護用品券を支給します。

○給付額:月額6,000円分の介護用品券

③ 家族介護者リフレッシュ事業



事業内容

介護保険で要介護1~5と認定を受けた高齢者を在宅介護している家族に対し、短期入所(特別養護老人ホーム恵寿荘等)利用における自己負担額を一部助成します。

○助 成 額 : 4日分を限度とする短期入所利用に伴う自己負担額

④ ゴミ処理手数料軽減対策事業(エンゼル券)



事業内容

介護保険で要介護 $1 \sim 5$ の認定を受けた在宅で暮らす高齢者のうち、常時 おむつを使用する場合にごみ処理券を支給します。

○給 付: ごみ処理券(燃やせるごみ大袋)年間30枚

(4) 他機関との連携強化

① 在宅医療・介護連携推進事業



事業内容

医療と介護の両方を必要とする高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるよう、以下8つの取組みを通じて、医療及び介護関係機関との連携を円滑にし、在宅医療と介護を一体的に提供するための体制を構築します。

- (ア) 地域の医療・介護の資源の把握
- (イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
- (ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築
- (エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援
- (オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援
- (カ) 医療・介護関係者の研修
- (キ) 地域住民への普及啓発
- (ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携

今後の展望等

- ・今後も会議等を通じて、医療・介護関係者間の「顔の見える関係性」に 基づく連携強化を図ります。
- ・8つの項目の具体的な取組みについては、以下のとおりとします。

(ア) 地域の医療・介護の資源の把握



・医療・福祉マップの作成

平成25年度作成の「福祉サービスマップ」を一新し、「医療・福祉マップ」を作成。 地図上から医療機関や介護事業所の位置や連絡先を確認することができ、また、QRコードを読み取るとことで、機関毎の診療時間(営業時間)、担当窓口等の詳細を見ることができます。



(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討



・地域ケア会議を活用した協議の場の確保

地域ケア個別会議において、医療と介護の連携を含む地域課題の抽出及び 支援策の模索を行い、その後、地域ケア推進会議において、課題解決に向け た既存事業の見直しや新たな事業の創設といった政策形成に繋げる等の流れ を整えております。

(ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築



・日高中部消防組合新冠支署との連携

救急搬送情報を基に、搬送先の病院に患者の状況を確認します(おおよそ24時間以内)。患者が介護保険等のサービス利用者の場合は、病院ケースワーカーと担当ケアマネジャーの橋渡しを行い、サービス未利用者の場合は、必要に応じて、病院から地域包括支援センターを周知していただく等、スムーズな在宅支援に向けた支援体制を構築しています。

・先制的訪問相談支援の実施検討

入院中の患者やその家族から相談が来るのを待つのではなく、入院の段階から病院のケースワーカーと連携し、積極的に患者やその家族と関わりを持ち、病気や怪我等からくる生活不安が大きくなる前に支援する新たな相談支援体制についても実施に向けて検討します。

(エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援

継続

・地域連携パス(マイカルテ)の活用

高齢者本人の基本情報(緊急連絡先や利用 中のサービス等)を書き込むことのできる手 帳(マイカルテ)を配布。(希望者のみ)高齢 者本人が持ち歩き、利用先の医療機関や介護 事業所等に提示することで、関係者間で情報 共有することができます。



(単位:部)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
配布数	78	90	93	100	105	110

※令和2年度までは実績値

※令和3年度以降は目標値または推計値

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援



・新冠町在宅医療・介護連携支援センターの設置

在宅医療と介護の連携を支援する相談窓口として、保健福祉課(地域包括 支援センター)に「在宅医療・介護連携支援センター」を設置します。

在宅医療や介護に関する相談を受けており、必要に応じて、退院の際の連携調整や医療機関・介護事業所相互の紹介を行います。

(カ) 医療・介護関係者の研修



・医療・介護関係者を対象とした研修会の開催

在宅医療・介護連携推進会議内おいて、医療及び介護関係者を対象に地域 連携に関する研修会を開催します。医療関係者には介護に関する研修会、介 護関係者には医療に関する研修会の開催についても検討します。

(キ) 地域住民への普及啓発

民が知りたい情報を発信します。

・医療と福祉の情報誌「WA・輪・WA」 年数回、医療と福祉の情報誌「WA・輪・ WA」を発行。記事内容は、医療・介護関係 者有志からなる作業部会において協議し、町



(単位:回)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
年間発行回数	3	3	3	3	3	3

※令和2年度までは実績値 ※令和3年度以降は目標値または推計値

(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携

継続

・他町との協力体制の構築

在宅医療・介護に関して、研修会の共同開催など、広域的に実施した方がより効果的と判断できる事項については、日高振興局及び保健所の協力を得ながら、適宜隣接する町と連携を図り、円滑な協力体制を構築します。

(5) 安心できる住まいの提供

① 高齢者共同生活施設「あいあい荘」の整備



事業内容

在宅でひとり暮らしをする高齢者の心身の健康と生活の安定を図るため、高齢者専用住宅として、高齢者共同生活施設「あいあい荘」を整備しています。

○所在地 : 新冠町字東町13番地の14

○開設日 : 平成11年11月15日

○居室数 : 15室

今後の展望等

・町内唯一となる在宅と介護保険施設 との中間施設として、随時、施設管理 体制の見直しを行うとともに、入居者 の安心した居住空間の整備に努めます。



基本目標2. 認知症施策との共生による備えと安心の確保

- (1)認知症の理解促進と本人発信機会への支援
- ① 認知症サポーター養成講座の開催

拡充

事業内容

認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を温かい目で見守る応援者である認知症サポーターを養成します。

今後の展望等

- ・町民を対象とした講座を適宜開催し、認知症の人を地域で支える基盤整備を行います。
- ・児童期からの認知症の理解促進のため、今後も継続して小学生等を対象とした講座を開催します。
- ・認知症サポーター養成講座修了者の復習も兼ねた学習する機会を設け、 実際の活動に繋げる取り組みの充実を図ります。

(単位:回、人)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
講座の開催回数	3	1	2	3	3	3
実参加者数	112	41	45	110	110	110

※令和2年度までは実績値

※令和3年度以降は目標値または推計値

② 認知症ケアパス等による相談先の周知



事業内容

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らすために、認知症に関する相談先や症状に合わせてどのような支援が受けられるのか等をまとめた「認知症ケアパス(認知症おたすけ帳)」を配布します。

今後の展望等

- ・年1回、地域ケア推進会議内において、専門的 観点から内容の見直しを図ります。
- ・世界アルツハイマーデー(毎年9月21日) 及び月間(毎年9月)に併せて、認知症に関する 啓発活動を実施します。

(例:公共施設における認知症コーナーの設置等)



③ 認知症本人からの発信支援



今後の展望等

・認知症と診断された人の支えとなるよう、認知症ケアパス(おたすけ帳)を普及します。

(2) 認知症の予防支援

① 認知症予防事業(脳の元気アップ教室)の実施



事業内容

高齢者を対象に、認知症の発症を少しでも遅らせるよう、予防に資する可能性のある(脳の活性化に繋がる)知識の普及啓発を図るために、認知症予防事業(脳の元気アップ教室)を実施します。

今後の展望等

- ・社会情勢を考慮しながら、脳の活性化に繋がるような取り組みを集中的に行います。
- ・地域に点在する生活館等で教室を開催し、身近に通える場に外出機会を 設けることで、閉じこもりによる機能の低下を防ぐとともに、地域活動の 活性化に繋げます。

(単位:人)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
実参加者数	95	120	91	100	110	120

※令和2年度までは実績値

※令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で 集団での教室は実施せず、自宅でできる形式に変更。 問題集を送付し、参加者は取組み後、役場まで提出。

(3) 認知症の早期発見・早期対応の推進

① 見守り見回り活動事業による徘徊の早期発見体制



事業内容

認知症による徘徊等で高齢者が行方不明になった場合、家族の同意を得た上で、見守り隊員や見回り事業所に捜索に係る情報をメール等で発信します。その後、見守り隊員は日常生活において、見回り事業所は通常業務中において対象者を見かけたときは、地域包括支援センター(保健福祉課)まで連絡する流れを整えています。

また、行方不明になった際の情報共有がより迅速に行われるよう、事前に 認知症の人の情報(身体上の特徴や連絡先、写真等)をその家族が町に登録 しておく、事前登録制度も設けています。

○見守り隊員 : 町内に住所を有する者で、見守り隊員証の交付を受

けた者

○見回り事業所 : 宅配等で町内を巡回する事業所で、町と協定締結し

た事業所

今後の展望等

・捜索時の人の目を増やすためにも、見守り隊員及び見回り事業所の登録 数増加は必須となることから、今後も継続して事業趣旨や目的の周知徹底 を図ります。

(単位:人、ヵ所)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
見守り隊員数	100	105	100	110	115	120
見回り事業所数	23	25	26	26	27	28

※令和2年度までは実績値



【地域見守り見回りキャラクター『にいかっぷん』】

② 認知症高齢者見守り事業(徘徊高齢者位置情報検索機器導入費補助)

事業内容



認知症による徘徊で行方不明となる可能性のある高齢者の生命の安全・事故防止、介護者の身体的・精神的・経済的負担を軽減するため、位置情報(GPS)検索機器の導入経費の一部を助成します。

今後の展望等

- ・認知症のある人を介護する家族の負担軽減のため、徘徊行動のある場合には、ケアマネジャーと協力しながらGPS機器の利用を提案します。
- ・地域の見守り意識の高揚及びGPS機器利用への抵抗感を軽減させるため、これらを活用した認知症徘徊捜索模擬訓練の実施を検討します。

③ 認知症初期集中支援チームの設置



事業内容

認知症の早期診断・早期対応に向けた支援体制として、認知症の人やその 家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を設置しています。

○対 象 者: 原則40歳以上の認知症または認知症が疑われる者で

適切な医療及び介護サービスを受けていない者

○チーム構成: 医療及び福祉の専門職(地域包括医療・ケア推進室)

医療系専門職 … 看護師、理学療法士、保健師等

福祉系専門職 … 社会福祉士

認知症サポート医 … 国保診療所 医師

○支援の流れ : ① 医療系・福祉系専門職の2名で対象者宅を訪問。

② 適切な医療及び介護が受けられるまで相談を中心 とした支援 (医療機関への受診サポート、介護サービ

スとの連携支援等)を行います。

③ 必要に応じて、チーム員会議を開催し、支援方針や

支援内容等について検討します。

今後の展望等

・認知症初期集中支援チーム間の情報共有や研修等を通じて、対応力の向上を図ります。

④ 認知症地域支援推進員の配置



事業内容

「認知症地域支援推進員」を地域包括支援センター(職員が兼務)に配置し、医療や介護、生活支援サービスを提供する様々な関係機関との連携体制づくり、認知症ケアパス(認知症おたすけ帳)・認知症カフェ、社会参加活動などの地域支援体制づくり、認知症の人やその家族を支援する相談業務等を行います。

今後の展望等

・認知症地域支援推進員が、認知症に関する医療や介護等の連携の推進役 として、今後も認知症カフェの運営支援や認知症ケアパスの作成、認知症 サポーターの養成を行います。

(4) 認知症バリアフリーと社会参加

① 認知症カフェの充実



事業内容

認知症の人やその家族の孤立を防ぐとともに、地域住民に対する認知症についての正しい理解を啓発する拠点として、認知症カフェの設置を推進し、認知症地域支援推進員が運営を支援します。

今後の展望等

- ・今後も認知症の人やその家族、地域住民が気軽に集うことができる場が 増えるよう、認知症カフェの新規設置を支援します。
- ・認知症になっても支えられる側ではなく、支える側として役割と生きがいを持って生活できる場となるよう、認知症の人本人も運営等に参画する 取組を推進します。

(単位:ヵ所)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
設置数	1	2	2	2	3	3

※令和2年度までは実績値

② チームオレンジの整備



事業内容

チームオレンジとは、認知症の人やその家族の困りごととそれを支援する 認知症サポーターを結びつける取り組みです。認知症サポーターがチームを なして、認知症の人やその家族の生活面を支援していくことで、引きこもり や地域からの孤立を防ぐ効果が期待できます。

(活動の具体例)

- ○認知症カフェの運営のお手伝い
- ○認知症カフェへの同行支援
- ○見守りや話し相手

今後の展望等

・認知症サポーターの「できる範囲で手助けを行う」という活動の任意性 は維持しつつ、活動の場を広げるための仕組みづくりを検討します。

基本目標3. 高齢者の健康寿命の延伸に向けた支援の充実

- (1) 介護予防・日常生活支援総合事業の推進
- ① 訪問型サービスと通所型サービス



事業内容

介護保険で「要支援」、または基本チェックリストで「事業対象者」と判定された方に対し、訪問型サービスと通所型サービスを提供します。

訪問型サービスは、日常生活上の生活援助(掃除や洗濯等)を、通所型サービスは、生活機能向上のための機能訓練を提供し、それぞれ下記のとおり分類されます。

訪問型サービス	サービス内容
訪問介護相当サービス	訪問介護員による身体介護、生活援助
訪問型サービスA	人員等の基準緩和した町独自サービス
訪問型サービスB	ボランティア等による住民主体のサービス
訪問型サービスC	保健師等が短期集中で生活機能改善を指導
訪問型サービスD	移動支援(訪問型サービスBに準ずる)

通所型サービス	サービス内容
通所介護相当サービス	通所介護と同様のサービス
通所型サービスA	人員や場所等の基準緩和した町独自サービス
通所型サービスB	ボランティア等による住民主体のサービス
通所型サービスC	短期集中で生活機能改善プログラムを実施

当町では、平成28年1月の介護予防・日常生活支援総合事業開始以降、 訪問型サービスは「訪問介護相当サービス」、通所型サービスは「通所介護 相当サービス」を展開しています。

今後の展望等

- ・今後も引き続き、要支援者及び事業対象者に対し、「訪問介護相当サービス」「通所介護相当サービス」を提供します。
- ・家族構成の変化や生活ニーズの多様化に伴い、介護保険や行政サービスでは補うことのできない課題に対し、ボランティアポイント制度(6.2ページ参照)を含めた訪問型サービスB等は、柔軟な対応が期待できることから、提供の可能性について検討します。

- ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果からも、今後、移動難民が更に増加することが見込まれることから、訪問型サービスD(移動手段)の 実施についても検討します。
- ・通所型介護予防事業(56ページ参照)をより専門性の高いものとして、 通所型サービスCに転換することについても検討します。

(単位:千円、人)

訪問型サービス	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
年間給付費	5, 665	5, 503	4, 826	6, 000	6, 100	6, 200
延べ利用者数	357	325	295	361	367	373

通所型サービス	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
年間給付費	9, 625	7, 495	5, 939	7, 000	7, 100	7, 200
延べ利用者数	388	297	230	269	273	276

※令和2年度までは実績値

※令和3年度以降は目標値または推計値

② その他生活支援サービス事業 (ふれあい夕食事業)



事業内容

調理が困難な高齢者に対し、宅配による夕食(弁当)の提供を行い、栄養 改善の維持及び安否確認を行っています。

種 類	料金 (1 食)	利用可能日
一般食	350 円	週7日
減塩食	420 円	週6日(月~土曜日)
量控えめ	360 円	週6日(月~土曜日)



今後の展望等

- ・配食による栄養状態の維持と安否確認のため、今後も継続実施します。
- ・令和2年度から減塩食・量控えめ食の提供を開始しており、今後も利用者の生活や疾病状況に応じて選択できる体制を継続します。

(単位:食、人)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
年間総食数	9, 505	10, 688	12, 852	12, 900	13, 400	14, 000
1日あたり平均食数	26.0	29. 2	35. 2	35. 3	36. 7	38. 4
1か月あたり平均実利用者数	38. 0	45. 3	55. 7	54.0	55.0	56.0

※令和2年度までは実績値

③ 介護予防把握事業



事業内容

要介護(要支援)認定を受けていない高齢者に対し、基本チェックリスト (おたっしゃ度チェック表)を送付し、心身の健康状態や日常生活の動作から介護予備軍(介護が必要な状態に近づいている人)を確認します。介護予備軍に該当する人には、各種事業への参加を促す等、早期の介護予防(支援)に繋げます。

今後の展望等

・継続して高齢者の心身の状態を確認し、未回答者については、地区民生 委員からの情報を基に個別訪問を行う等、介護予防の必要性についての啓 発を図ります。

(単位:人、カッコ内%)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
対象者	1, 407	1, 429	1, 427	1, 422	1, 417	1, 412
回答者(回答率)	898	790	916	854	850	847
	(63. 8)	(55.3)	(64. 0)	(60.0)	(60.0)	(60.0)
介護予備軍	477	402	277	427	425	423

※令和2年度までは実績値

④ 通所型介護予防事業(お喜楽☆おたっしゃ塾)



事業内容

介護予防把握事業で把握した介護予備軍を対象に、週1回3ヶ月間(計15回)、下記プログラムを柱とした教室を開催します。

- ○運動器機能向上プログラム (筋力及び持久力の向上のための運動)
- ○栄養改善プログラム (高齢期に必要な食生活の見直し)
- ○口腔機能向上プログラム(摂食や嚥下の機能訓練を目的とした体操)

今後の展望等

- ・1クール15回の教室を継続し、生活機能の維持が図れるよう、介護予防に資する取組みの定着に向けた支援を行います。
- ・介護予防の意欲高揚や参加者同士の交流のため、本来、集団で行うことが望ましいですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を考慮し、集団では難しい場合は、タブレット端末を貸与し、インターネットの環境が整っていればオンライン配信による運動指導、環境が整っていない場合は、オフラインでの運動動画視聴等の方法を検討します。

(単位:人、回)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
延べ参加者数	439	413	380	510	540	600
実施回数(1 クール 15 回)	30	30	27	30	30	30

※令和2年度までは実績値

※令和3年度以降は目標値または推計値

⑤ 地域リハビリテーション活動支援事業



事業内容

各種事業(地域介護予防活動支援事業等)に新冠町立国民健康保険診療所の理学療法士等が関与することにより、地域における介護予防の取組みを強化します。

今後の展望等

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を考慮しながら、地域 での取組みに対し、可能な限り支援します。

(2)疾病予防と健康増進施策の推進

① 健康まつりの開催(地域医療講演会)



事業内容

町民の疾病予防や介護予防に対する意識の高揚を図ることを目的に、健康 まつりを開催します。医療や介護に関する催し物を数多く設け、興味関心を 持つきっかけとするとともに、地域の医療・介護関係者と接する機会を設け ることでの関係構築の推進を図ります。

〈令和元年度 健康まつり開催内容〉

- 診療所理学療法士による体操の実演会
- 町内飲食店代表を招いての食品ロスをテーマとした健康料理教室
- 外部講師を招いての地域づくり講演会
- 町保健師による健康チェック
- 診療所看護師による健康相談
- 車椅子等の福祉用具の展示
- 町内介護・福祉関係事業所の紹介(パネル展示)
- 認知症をテーマとした映画の上映
- 日高中部消防組合消防署新冠支署による心肺蘇生とAED講習

今後の展望等

- ・平成23年度から26年度までは管内の医師、平成27年から30年度 までは国保診療所の医師や看護師等を中心に地域医療講演会を開催してき ました。令和元年度、現在の「健康まつり」を開催し、今後も町民が楽し みながら興味関心のある情報が得られるよう事業を継続します。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大等の影響から、健康まつりの開催 が難しいと判断される場合は、社会情勢を考慮した上で、小規模で行う等 の工夫をしていきます。

② いきいき大学の開講



事業内容

高齢者が健康で豊かな老後を過ごせるために新しい知識や技術を習得する機会として、いきいき大学を開講します。年間複数回開催し、高齢者が生きがいを見出し、余暇活動の拡大に繋がるような内容を提供します。

③ 特定健診と健康診査



事業内容

生活習慣病等の危険因子を早期に発見し、重症化を予防することを目的に、 特定健診及び健康診査の受診を促します。

○対象者: 特定健診 40歳から74歳までの国保加入者 健康診査 40歳以上の生活保護受給者、後期高齢者

今後の展望等

- ・近隣の医療機関で通年受診できる個別健診と年3回(計7日間)の集団 健診を通じ、自己の健康状態を知る機会をつくるとともに、必要に応じて、 個別に保健指導を行います。
- ・今後も未受診者に対する受診勧奨を進めるとともに、町民の健康意識向上に向けた取り組みを強化します。

④ 各種がん検診



事業内容

要介護状態となる原因の1つである「がん」を早期に発見し、早期治療に繋げることを目的に、各種がん検診(胃・肺・大腸・前立腺・子宮・乳房)の受診を促します。

○対 象 者 : 胃がん・肺がん・大腸がん … 40歳以上

前立腺がん … 50歳以上の男性 子宮がん … 20歳以上の女性 乳がん … 40歳以上の女性

⑤ 脳のMRI検査



事業内容

脳血管疾患の兆候を早期に発見することで、発症前の早期治療に繋げることを目的に、巡回検診車による脳のMRI検査を実施し受診を促します。

○対象者: 40歳から74歳

(ただし、すでに頭部疾患で入通院していたり、2年以内に当検査を受診している人は除く。)

⑥ 健康相談



事業内容

高齢者の日常生活上の健康管理に活かされるよう、病気や健康に関する相談に応じ、必要な助言等を行います。

⑦ 健康教育



事業内容

自治会や老人クラブ等の団体からの依頼に合わせて、生活習慣病予防や 認知症予防など、健康問題に関する学習機会としての健康教育を行います。

⑧ 寿入浴事業



事業内容

温泉での入浴を通じて、健康増進と身体機能の維持向上を図ることを目的に、温泉入浴券を交付します。

○対象者: 70歳以上

○交付内容 : 年36回分の温泉入浴券

⑨ 長寿祝金贈呈事業



事業内容

敬老と長寿を祝福するため、100歳を迎える方に祝い金を贈呈します。

基本目標4. 高齢者の社会参加と地域の支え合いの促進

- (1)地域における支え合い体制の構築
- ① 地域見守り見回り活動事業 (49ページ 再掲)



事業内容

見守り隊員は日常生活において、見回り事業所は通常業務中において、地域の高齢者の異変(※)に気付いた際は、地域包括支援センター(保健福祉課)まで連絡する体制を整えております。

また、児童を対象としたふれあい夕食配達体験(弁当の配達体験)を実施し、多世代交流を通じた相互理解及び地域全体で高齢者を見守る意識の醸成を図ります。

今後の展望等

・普段の生活の中で少しの変化 にも気付ける見守り隊員が増え るよう、事業周知に力を入れる とともに、ふれあい夕食配達体 〈異変の例示〉

- 郵便受けに新聞等が溜まっている。
- 昼間にカーテンが閉まっている。
- 夜間にカーテンが開いている。
- 同じ洗濯物が干したままになっている。
- 冬場に玄関前が除雪された形跡がない

験についても情勢を考慮しながら内容を検討した上で実施します。

② 生活支援体制整備事業



事業内容

高齢化が進み、家族構成の変化や生活ニーズの多様化、介護の担い手が不足する等の状況下において、それらを行政サービスや介護保険等の各種制度だけで補うには限界があります。よって、生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)を配置し、住民同士の助け合いによって解決できる問題は地域で支え合う仕組みづくりを推進します。

〈生活支援コーディネーターとその役割〉

行政や制度にとらわれず、地域課題は地域で解決することを目標に、 多様な主体による多様な取り組みをコーディネート(調整)し、一体 的な生活支援等サービスの提供体制を整備する者

- ① 地域住民と接する中から地域の課題やニーズを掘り起こす
- ② 支援者(ボランティア)を養成し、多様な支え合い活動を構築
- ③ 地域ニーズと多様な支え合い活動を結びつける

今後の展望等

- ・既存の地域団体(自治体や老人会等)と連携を図り、活躍の場の創出に 繋げます。
- ・地域の問題に対し、住民が主体的になって解決が図れるよう、有償ボランティア制度等を整備し、機能的に活用することで新たな地域サービスの 創出に繋げます。
- ・地域住民や生活支援コーディネーター等で構成された「協議体」を設置し、情報共有及び連携強化を図ります。
- ・地域の実情を踏まえた新たな自主的な取り組みを促進し、中長期的な視野で地域共生社会の実現を目指します。

(2) 高齢者が活躍できる場の充実

① 地域介護予防活動支援事業



事業内容

高齢者が容易に通える場所で地域住民が主体となって活動する「通いの場」 の創設を支援し、地域活動の推進を図ります。

週1回以上活動する概ね5名以上のグループで、「いきいき百歳体操」を 実施する場合には、映像DVD、DVDデッキ、ボランティアグループあゆ み製作の腕や足につける重りを貸出し、活動継続を支援します。





今後の展望等

・モチベーション維持に繋がるよう活動を介護つうしん等で紹介するとと もに、通いの場間の交流事業についても検討します。

(単位:ヵ所)

	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
通いの場の設置数	9	8	9	10	10	10

※令和2年度までは実績値

② 老人クラブの活動支援

事業内容

各老人クラブと連携し、高齢者が自ら取り組む生きがい活動や健康づくりに関する各種事業について支援します。

③ 敬老事業費補助事業



【事務局:新冠町社会福祉協議会】

事業内容

75歳以上の高齢者を対象として開催される各地区(自治会)の敬老事業開催経費を一部助成します。

○補助額: 1人あたり1,000円

(3) 高齢者の社会参加の推進

① ボランティアポイント制度の整備



事業内容

介護保険制度改正等において国は、高齢者自らの能力を活かし、社会の一員として活躍できる環境や仕組みづくりの推進を図るとともに、公的福祉サービスでは補えない制度の狭間にある問題については、住民同士の助け合いによる支援への転換を示しています。

当町においても、今後起こりうる生活上の課題やニーズに対し、町民一人 ひとりの知識や能力等を活かした地域の助け合い活動の1つとして、「ボラ ンティアポイント制度」の創設に向けた検討を進めます。

ボランティア活動による社会参加及び地域貢献を通じて、社会的役割の確立、自身の健康増進及び介護予防、地域の助け合い活動の構築を目指します。

今後の展望等

・介護予防・日常生活圏域ニー ズ調査の結果から、地域活動へ の参加意欲が高い人が多く見ら れますが、一方で将来、手助け 〈ボランティア例〉

- ゴミ出しや草取り等の軽作業
- 介護事業所等における運営補助
- 各種行事の手伝い

が必要となると思われることとして「除雪」「家の周りの掃除」等、潜在的な地域ニーズも多く挙げられることから、生活支援コーディネーターと協

力しながら、それらをマッチングできる体制を整えます。

- ・関係機関や受け入れ施設等と導入に向けた検討を進めます。また、生きがいや介護予防の意識向上へ繋がる取組みとなるよう体制を整えます。
- ・友人同士等で、これまでも無償で助け合い活動(ボランティア)を行っている人も見られますが、お願いする側は「何度も頼みにくい」等の気持ちが生じたり、支援する側は「頼まれたら断れない」等の強制感を感じてしまう可能性があります。一定のルールを設けることで、お願いする側と支援する側の対等性(お互い様)を保つとともに、継続性を確保します。
- ・慢性的な介護人材不足が続く中、介護の専門職以外の人でも行うことのできる作業については、ボランティアに任せる等、少しでも介護事業所職員の負担軽減に繋がるよう支援します。

② 就労支援



今後の展望等

・高齢者が地域の中で役割を持っていきいきと生活できるよう、一定の収入を得ながら生きがいや健康づくりに繋がる活動を支援し、更には、地域包括ケアシステムにおける介護予防や生活支援のサービス基盤を構築することとして、就労的活動支援コーディネーター(※)の配置を検討します。配置にあたっては、既存の高齢者事業団と連携を図りながら、高齢者の就業を通じた社会参加を促します。

(※) 就労的活動支援コーディネーターとは

就労的活動の場を提供できる民間企業・団体等と就労的活動の取組を実施したい事業者等とをマッチングし、高齢者個人の特性や希望に合った活動をコーディネートすることにより、役割がある形での高齢者の社会参加等を促進する。

-	64	-
---	----	---

令和2年度 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 集計結果報告書

令和2年 7月 新冠町保健福祉課

	_
--	---

- (1)調 査 目 的 要介護状態になる前の高齢者の日常生活リスクや社会参加状況を把握 することで、地域の抱える課題を特定するとともに、地域の特性を活か した事業展開に繋げることを目的に実施。
- (2)調 査 対 象 令和2年度中に65歳以上となる者 (ただし要介護認定を受けている者は除く)
- (3) 調 査 期 間 令和2年4月1日(水)~4月20日(月)
- (4)調査内容 選択式のアンケート調査 全57問 + 自由記述
- (5)調査方法・調査票の配布: 郵送

【回収箱設置場所】

- ・新冠町役場・新冠町レ・コード館
- ・新冠町国保診療所 ・老人憩いの家(中央町・節婦町)
- ・新冠温泉レ・コードの湯 ・新冠町コミュニティバス

(6) 回収状況

		【今 回】	【H29 年度】	【H26 年度】
対象者数	:	1,568名	1,438名	1,519名
回答者数	:	1,011名	935 名	854名
回答率	:	64.5%	65.0%	56.2%

(7)調査結果について

今回の調査は、前回(平成 29 年度)結果と比較し、回答者の居住地区別割合(P68)に若干の差はあったものの、回答者の男女比及び平均年齢等については殆ど差がなく、比較するにあたっては有効な結果となった。

回答者の身体機能では、「できる」「している」との回答割合が概ね前回より上回っていたものの、運動器機能では7.5%(75名)、口腔機能では21.7%(220名)、認知機能では18.8%(190名)の方の機能低下が認められ、特に80歳を過ぎたころから顕著となることが確認できた。また、調査期間と新型コロナウイルスの影響による外出自粛が重なったこともあってか、41.2%(417名)の方にうつ傾向があるとの結果となった。

社会活動については、大方参加していない状況であったが、自治会等の活動には年に数回参加していたり、地域づくりに関する問いにも「参加したい」「参加してもよい」との声もあることから、興味関心がある方が多くいることは確認できた。また、助け合い活動についても、手助けしてあげられること(ボランティア)として、「日頃の話し相手」「声掛けや見守り」と回答する方も多く、支援の受け手から担い手へ成り得る可能性が感じられるものの、将来、手助けしてほしいこと(手助けが必要となること)との間にギャップがあり、それをどう埋めるかが今後の課題となる。

【回答者内訳】

(1)日常生活圏域別

	牡色 老米。			年齢別回答者内訳									
	対象者数	回答者	回答者	回答者	回答率	65~69	70~74	75 ~ 79	80~84	85~89	90~94	95~99	100以上
本 町	174	123	70.7%	18	31	25	38	5	3	3	0		
中央町	86	62	72.1%	12	14	20	9	4	2	1	0		
北星町	316	225	71.2%	55	52	50	33	23	10	2	0		
東町	193	145	75.1%	26	39	21	23	21	10	5	0		
市街地合	H 769	555	72.2%	111	136	116	103	53	25	11	0		
泊 津	100	66	66.0%	23	17	8	10	2	5	1	0		
高江	57	29	50.9%	4	10	6	4	1	2	2	0		
朝日	43	28	65.1%	7	8	2	2	4	3	2	0		
大 富	42	26	61.9%	1	8	9	4	2	1	1	0		
万世	26	14	53.8%	5	4	1	1	2	0	1	0		
明和	20	11	55.0%	2	3	0	4	1	1	0	0		
緑丘	26	18	69.2%	6	4	3	3	0	1	1	0		
古岸	27	16	59.3%	2	3	1	4	2	4	0	0		
若 園	23	8	34.8%	2	1	1	2	2	0	0	0		
新栄	20	8	40.0%	3	2	2	0	0	1	0	0		
泉	27	9	33.3%	4	1	0	0	4	0	0	0		
新冠沢合		233	56.7%	59	61	33	34	20	18	8	0		
節婦町	190	104	54.7%	20	24	23	20	15	2	0	0		
大狩部	59	33	55.9%	7	8	9	3	4	2	0	0		
共 栄	32	20	62.5%	3	3	4	2	6	1	1	0		
東川	24	15	62.5%	7	0	4	0	1	1	2	0		
美宇	35	23	65.7%	6	3	0	7	4	2	1	0		
新和	12	5	41.7%	0	2	1	0	1	1	0	0		
太陽	33	19	57.6%	8	5	2	1	2	1	0	0		
里平	3	3	100.0%	1	2	0	0	0	0	0	0		
西新冠沢合詞	+ 388	222	57.2%	52	47	43	33	33	10	4	0		
不明	_	1	_	_	_	_		_	_	_	_		
合 計	1568	1011	64.5%	222	244	192	170	106	53	23	0		
構成比	_	_	_	22.0%	24.2%	19.0%	16.8%	10.5%	5.2%	2.3%	0.0%		

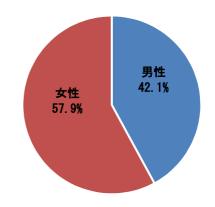
居住地区別割合

	今 回	H29 年度				
全 体	100.0%(1,010名)	100.0%(935名)				
市街地地区	55.0%(555名)	57.9%(541 名)				
新冠沢地区	23.1%(233名)	21.9%(205 名)				
西新冠地区	22.0% (222名)	20.2%(189 名)				

(2)男女比

	今 回	H29 年度
全体	100.0% (1,010名)	100.0% (935名)
男 性	42.1% (425 名)	42.4% (396名)
女性	57.9% (585 名)	57.6% (539名)

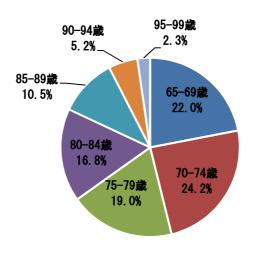
※R2 1名性別不明



(3)年齢階級別

	今 回	H29 年度
全体	100.0% (1,010名)	100.0% (935 名)
65-69 歳	22.0% (222名)	23.4% (219名)
70-74歳	24.2% (244 名)	21.0% (196 名)
75-79 歳	19.0% (192名)	21.7% (203 名)
80-84歳	16.8% (170名)	15.9% (149 名)
85-89 歳	10.5% (106名)	12.0% (112名)
90 歳以上	7.5% (76名)	5.9% (56名)
平均年齢	76.6歳	76.3歳

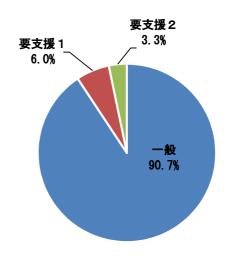
※R2 1名年齡不明



(4)要介護状態区分別

	今 回	H29 年度
一般	90.7% (916名)	91.1% (852名)
要支援1	6.0% (61名)	5.5% (51名)
要支援2	3.3% (33名)	3.4% (32名)

※R2 1名介護度不明



岡1

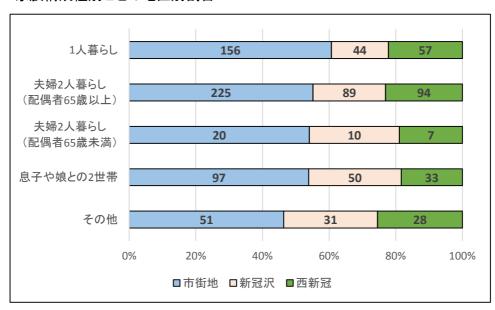
あなたのご家族や生活状況について

(1)家族構成(一緒に住んでいる方)について【N=1,011】

		今回 N=1,011	市街地地区 N=555	新冠沢地区 N=233	西新冠地区 N=222	H29 年度 N=935
1	1人暮らし	25.4% (257名)	28.1% (156名)	18.9% (44名)	25.7% (57名)	26.8% (251名)
2	夫婦2人暮らし (配偶者 65 歳以上)	40.5% (409名)	40.5% (225名)	38.2% (89名)	42.3% (94名)	39.4% (368名)
3	夫婦 2 人暮らし (配偶者 65 歳未満)	3.7% (37名)	3.6% (20名)	4.3% (10名)	3.2% (7名)	3.1% (29名)
4	息子や娘との2世帯	17.8% (180名)	17.5% (97名)	21.5% (50名)	14.9% (33名)	20.7% (194名)
5	その他	10.9% (110名)	9.2% (51名)	13.3% (31名)	12.6% (28名)	8.2% (77名)
	無回答	1.8% (18名)	1.1% (6名)	3.9% (9名)	1.4% (3名)	1.7% (16名)
	合 計	100.0% (1,011名)	100.0% (555名)	100.0% (233名)	100.0% (222名)	100.0% (935名)

※R2 「2. 夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」…1 名居住地区不明

家族構成種別ごとの地区別割合

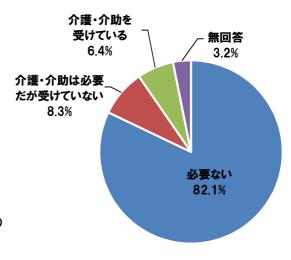


回答者の家族構成については、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が約4割(409名)と最も多く、次いで「1人暮らし」「息子や娘との2世帯」となっている。

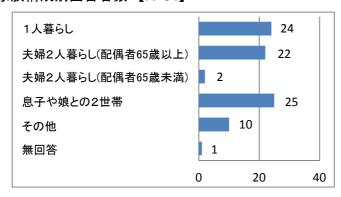
地区別で見ても、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の割合が最も高くなっているが、次いで市街地地区は、「1人暮らし」の割合が、新冠沢地区では、「息子や娘との2世帯」の割合が他の地区よりも高くなっている。一方で、西新冠地区では、「息子や娘との2世帯」の割合が他の地区と比べて低くなっている。

(2) 普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか 【N=1.011】

		今 回	H29 年度
1	必要ない	82.1% (830名)	79.7% (745名)
2	何らかの介護・介助は 必要だが受けていない	8.3% (84名)	9.6% (90名)
3	何らかの介護を受けて いる	6.4% (65名)	6.4% (60名)
	無回答	3.2% (32名)	4.3% (40名)



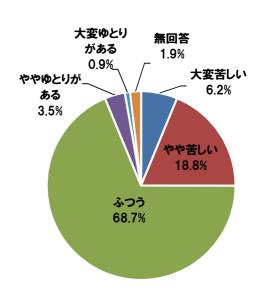
「2. 介護・介助は必要だが受けていない」と回答した方の 家族構成別回答者数【N=84】



主観的な介護の必要度について、 約8割(830名)は「必要ない」と回答。 一方で、1割弱(84名)は「何らかの介助・介護は必要だか受けていない」と 回答しており、そのうち、24名は「1人暮らし」である。

(3)現在の暮らしは経済的(金銭的)にどう感じますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	大変苦しい	6.2% (63名)	8.3% (78名)
2	やや苦しい	18.8% (190名)	19.9% (186名)
3	ふつう	68.7% (695名)	63.6% (595 名)
4	ややゆとりがある	3.5% (35名)	5.0% (47名)
5	大変ゆとりがある	0.9% (9名)	1.1% (10名)
	無回答	1.9% (19名)	2.0% (19名)



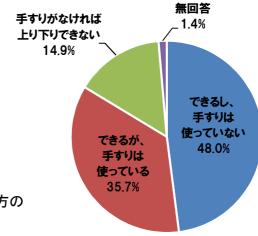
主観的な経済状況について、約7割(695名)は「ふつう」と回答。一方で、「大変苦しい」「やや苦しい」は、25%(253名)となっており、前回調査時(平成29年度)と比べると、割合は減っているものの、4人に1人は経済的不安を抱えていると想定される。

問2

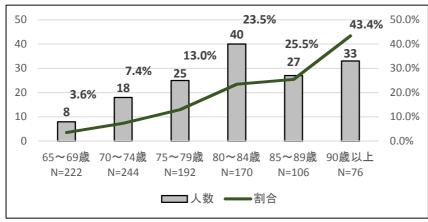
からだを動かすことについて

(1)手すりなどを使わずに階段を上り下りできますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	できるし、手すりなど	48.0%	43.7%
	は使っていない	(485名)	(409名)
2	できるが、手すりなど	35.7%	35.1%
	を使っている	(361名)	(328名)
3	手すりを使わなければ	14.9%	18.7%
	上り下りできない	(151 名)	(175名)
	無回答	1.4% (14名)	2.5% (23名)



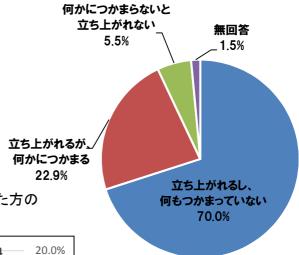
「3. 手すりを使わなければ上り下りできない」と回答した方の 年齢階級別割合【N=151】



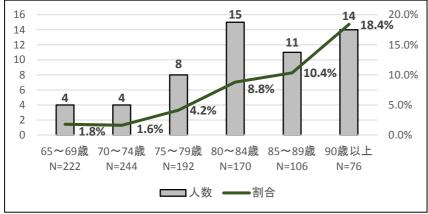
手すりなどを使わずに階段を上り下りできるかの問いに対し、5割弱(485名)は「できるし、手すりは使っていない」と回答しており、前回調査時と比べてもその割合は上がっている。一方で、15%(151名)は「手すりを使わなければ上り下りできない」と回答しており、年齢が上がるにつれて、より手すりなどの支えが必要となっている。

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がれますか 【N=1.011】

		今 回	H29 年度
1	立ち上がれるし、何も	70.0%	66.2%
	つかまってない	(708名)	(619名)
2	立ち上がれるが、何か	22.9%	23.9%
	につかまる	(232名)	(223 名)
3	何かにつかまらなけれ	5.5%	8.7%
	ば立ち上がれない	(56名)	(81名)
	無回答	1.5% (15名)	1.3% (12名)



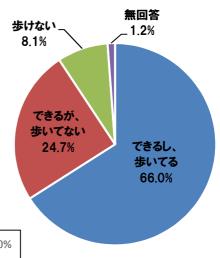
「3. 何かにつかまらなければ立ち上がれない」と回答した方の 年齢階級別割合【N=56】



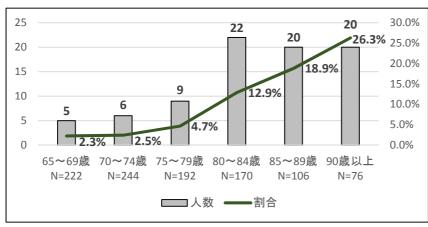
何もつかまらずに椅子から立ち上がれるかの問いに対し、7割(708名)が「立ち上がれるし、何もつかまってない」と回答しており、前回調査時と比べてもその割合は上がっている。一方で、5.5%(56名)は「何かにつかまらなければ立ち上がれない」と回答しており、年齢が上がるにつれて、より支えが必要となっている。

(3) 15分くらい続けて歩いていますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	できるし、歩いてる	66.0% (667名)	67.7% (633名)
2	できるが、歩いてない	24.7% (250名)	22.1% (207 名)
3	歩けない	8.1% (82名)	8.9% (83名)
	無回答	1.2% (12名)	1.3% (12名)



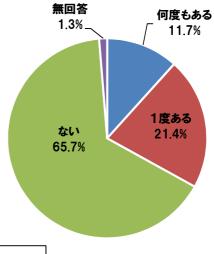
「3. 歩けない」と回答した方の年齢階級別割合【N=82】



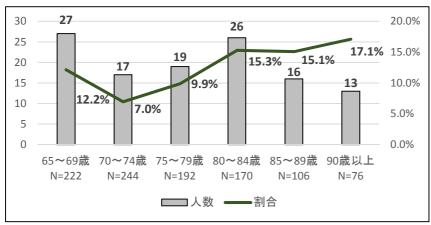
15分くらい続けて歩くことができるかの問いに対しては、7割弱(667名)が「できるし、歩いている」と回答。前回調査時と比べ、大きな変化は見られないが、一方で、8.1%(82名)は「歩けない」と回答しており、80歳を過ぎると割合が顕著に増加する。

(4)過去1年間に転んだ経験がありますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	何度もある	11.7% (118名)	14.8% (138名)
2	1度ある	21.4% (216名)	21.8% (204名)
3	ない	65.7% (664名)	62.4% (583名)
	無回答	1.3% (13名)	1.1% (10名)



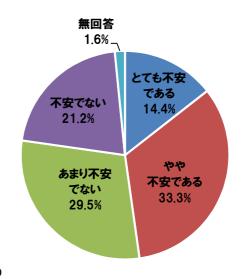
「1. 何度もある」と回答した方の年齢階級別割合 【N=118】



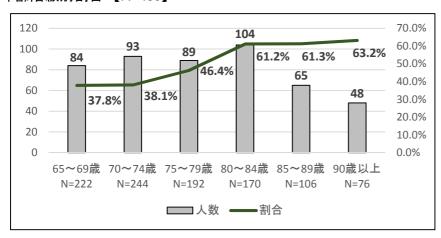
過去1年間に転んだ経験があるかの問いについては、65%(664名)が「ない」と回答しているのに対し、11.7%(118名)は「何度もある」と回答。80歳を過ぎると、何度も転倒する方の割合が顕著に増加している。

(5) 転倒に対する不安は大きいですか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	とても不安である	14.4% (146名)	15.6% (146 名)
2	やや不安である	33.3% (337名)	37.2% (348名)
3	あまり不安でない	29.5% (298名)	24.6% (230名)
4	不安でない	21.2% (214名)	20.4% (191名)
	無回答	1.6% (16名)	2.1% (20名)



「1. とても不安である」「2. やや不安である」と回答した方の 年齢階級別割合【N=483】

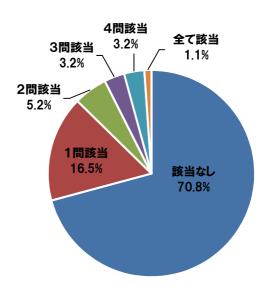


転倒に対する不安についての問いでは、約5割(483名)が「とても不安である」「やや不安である」と回答。年齢階級別では、前期高齢者(65~74歳)では約4割、80歳以上になると6割以上が転倒に対して不安を感じている。

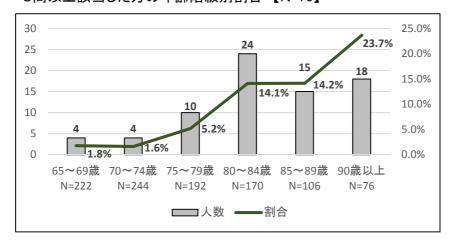
※問2(1)~(5)の設問において、次のように回答した方

- (1)手すりなどを使わずに階段を上り下りできますか
 - ⇒「3. 手すりを使わなければ、上り下りできない」
- (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がれますか
 - ⇒「3. 何かにつかまらなければ、立ち上がれない」
- (3)15分くらい続けて歩いていますか
 - ⇒「3. 歩けない」
- (4) 過去1年間に転んだ経験がありますか
 - ⇒「1. 何度もある」
- (5) 転倒に対する不安は大きいですか
 - ⇒「1. とても不安である」

		今 回	H29 年度
1	該当なし	70.8% (716名)	
2	1問該当	16.5% (167名)	
3	2問該当	5.2% (53名)	_
4	3問該当	3.2% (32名)	
5	4問該当	3.2% (32名)	_
6	全て該当	1.1% (11名)	



3問以上該当した方の年齢階級別割合【N=75】



問2(1)から(5)までの運動器機能を確認する問いのうち、上記基準に3問以上該当する場合は、厚生労働省が定める基準において「機能低下」と評価。本調査では、7.5%(75名)に運動器の機能低下が認められ、80歳を過ぎると割合が顕著に増加する。

※問2(4)(5)の設問において、次のように回答した方

(4)過去1年間に転んだ経験がありますか

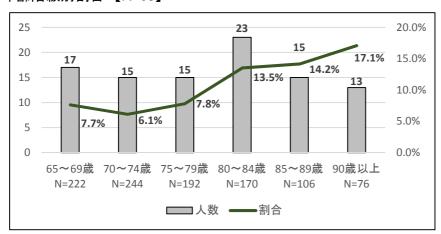
⇒「1. 何度もある」「2. 1度ある」

(5) 転倒に対する不安は大きいですか

⇒「1. とても不安である」「2. やや不安である」

	今 回	H29 年度
(4)「1. 何度もある」 (5)「1. とても不安である」	4.6% (47 名)	_
(4)「1.何度もある」 (5)「2. やや不安である」	5.0% (51名)	_
(4)「2.1度ある」 (5)「1.とても不安である」	3.8% (38名)	
(4)「2.1度ある」 (5)「2.やや不安である」	10.0% (101名)	ı

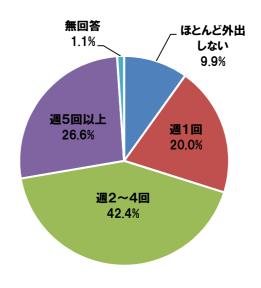
(4)「1. 何度もある」かつ(5)「1. とても不安である」「2. やや不安である」と回答した方の年齢階級別割合【N=98】



問2(4)(5)の転倒リスクを確認する問いのうち、過去1年間の転倒経験について、「何度もある」と回答し、尚且つ、転倒に対して「とても不安である」「やや不安である」と回答した方は、全体の約1割(98名)となっている。特に80歳を過ぎると割合が顕著に増加している。

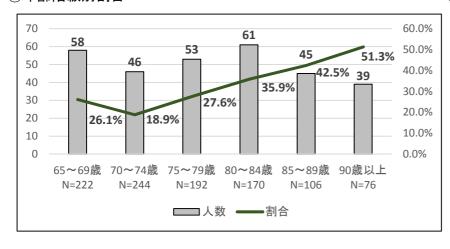
(6) 週に1回以上は外出してますか 【N=1.011】

		今 回	H29 年度
1	ほとんど外出しない	9.9% (100名)	9.2% (86名)
2	週1回	20.0% (202名)	17.6% (165名)
3	週 2 ~ 4 回	42.4% (429名)	42.4% (396名)
4	週5回以上	26.6% (269名)	29.5% (276名)
	無回答	1.1% (11名)	1.3% (12名)

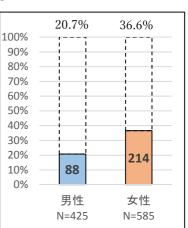


「1. ほとんど外出しない」「2. 週1回」と回答した方【N=302】

①年齢階級別割合



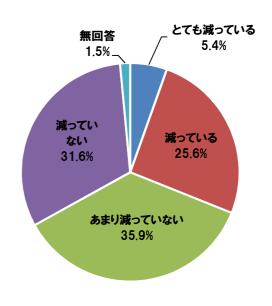
②男女別割合



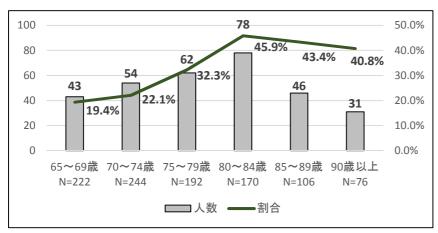
外出頻度については、7割(698名)が「週2~4回」「週5回以上」と回答しているのに対し、3割(302名)は「週1回」「ほとんど外出しない」と回答。年齢階級別では、80歳以上で4割前後、90歳以上で半数以上がほとんど外出しておらず、男女別で見ると、男性よりも女性の方が閉じこもり傾向にある。

(7)1年前と比べて外出の回数が減っていますか 【N=1.011】

		今 回	H29 年度
1	とても減っている	5.4% (55名)	4.0% (37名)
2	減っている	25.6% (259名)	21.5% (201名)
3	あまり減っていない	35.9% (363名)	35.1% (328名)
4	減っていない	31.6% (319名)	38.1% (356名)
	無回答	1.5% (15名)	1.4% (13名)



「1. とても減っている」「2. 減っている」と回答した方の 年齢階級別割合【N=314】



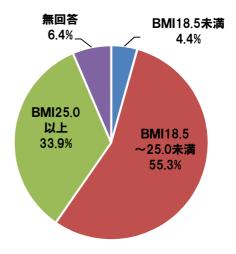
1年前と比較した主観的外出回数の変化について、約7割(682名)が「あまり減っていない」「減っていない」と回答。一方で、3割(314名)が「とても減っている」「減っている」と回答しており、前回調査時と比べても大きく増加している。年齢階級別では、前期高齢者(65~74歳)で20%前後、80歳以上で40%以上、外出回数が減少し、閉じこもり傾向が見られる。

問3

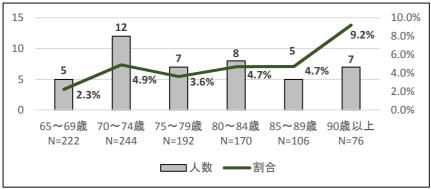
食べることについて

(1)身長と体重 【N=1,011】

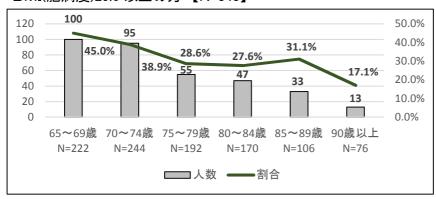
		今 回	H29 年度
1	BMI 18.5 未満	4.4% (44名)	4.9% (46名)
2	BMI 18.5~25.0 未満	55.3% (559名)	56.9% (533名)
3	BMI 25.0以上	33.9% (343 名)	31.8% (297 名)
	無回答	6.4% (65名)	6.4% (59名)



BMI(肥満度)18.5 未満の方【N=44】



BMI(肥満度)25.0 以上の方【N=343】



※ BMI(肥満度)とは

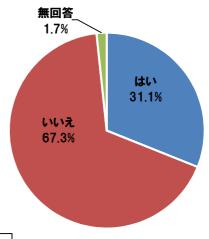
肥満度を測るための国際的な指標

- ・ 18.5 未満 「低 体 重 」
- · 18.5~25.0 未満 「普通体重」
- ・ 25.0 以上 「 肥 満 」
- ※ BMI(肥満度)の計算式体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)

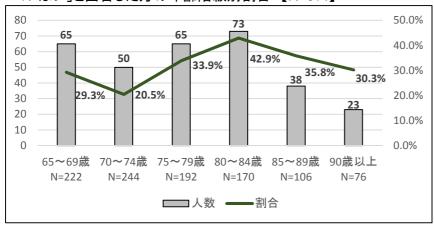
身長と体重から、BMI(肥満度)を測定し、 全体の55%(559名)は標準体重とされる「1 8.5~25.0未満」であったが、約4%(44 名)は低体重の「18.5未満」、約34%(343 名)は肥満とされる「25.0以上」であった。 年齢が上がるにつれて、低栄養に該当す る割合が高くなっている。

(2) 半年前と比べて固いものが食べにくくなりましたか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	はい	31.1% (314名)	31.0% (290名)
2	いいえ	67.3% (680名)	67.2% (628名)
	無回答	1.7% (17名)	1.8% (17名)



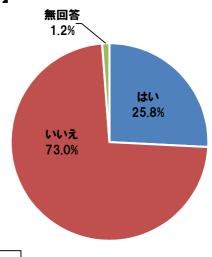
「1. はい」と回答した方の年齢階級別割合【N=314】



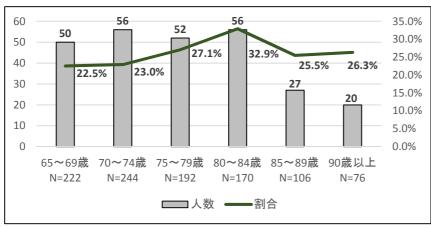
半年前と比べて固いものが食べにくくなったかとの問いに対し、約7割(680名)が「いいえ」と回答。3割(314名)が「はい」と回答しており、咀嚼機能が低下傾向にある。年齢階級別では、80~84歳の4割以上が固いものが食べにくくなったと感じている。

(3)お茶や汁物等でむせることがありますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	はい	25.8% (261 名)	_
2	いいえ	73.0% (738名)	_
	無回答	1.2% (12名)	_



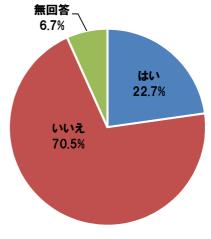
「1. はい」と回答した方の年齢階級別割合【N=261】



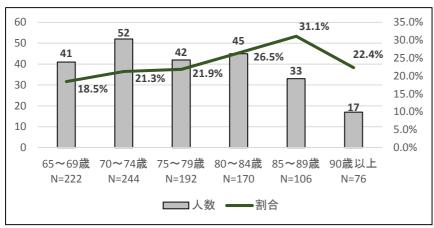
お茶や汁物でむせることがあるかの問いについては、7割以上(738名)が「いいえ」と回答するのに対し、4人に1人は「はい」と回答。年齢階級別では、特に80~84歳の3割以上が「はい」と回答しており、嚥下機能が低下傾向にある。

(4)口の渇きが気になりますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	はい	22.7% (230名)	1
2	いいえ	70.5% (713名)	_
	無回答	6.7% (68名)	1



「1. はい」と回答した方の年齢階級別割合【N=230】



口の渇きが気になるかとの問いに対し、7割以上(713名)が「いいえ」と回答。一方で、20%以上が「はい」と回答し、年齢が上がるにつれて、より割合が高くなっている。

※問3(2)~(4)の設問において、次のように回答した方

(2) 半年前と比べて固いものが食べにくくなりましたか ⇒ 「1. はい」

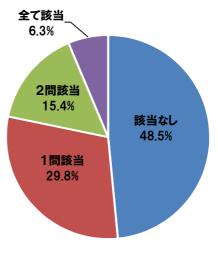
(3)お茶や汁物等でむせることがありますか

⇒ 「1. はい」

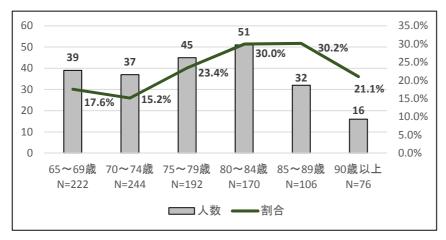
(4)口の渇きが気になりますか

⇒ 「1. はい」

		今 回	H29 年度
1	該当なし	48.5% (490名)	I
2	1問該当	29.8% (301 名)	_
3	2問該当	15.4% (156名)	_
4	全て該当	6.3% (64名)	_



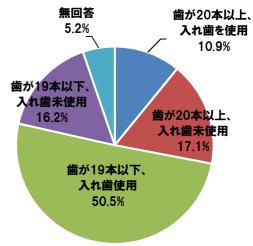
「2問該当」「全て該当」した方の年齢階級別割合【N=220】



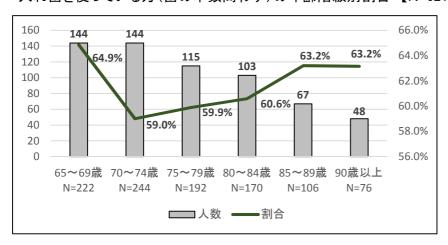
問3(2)から(4)までの口腔機能を確認する問いのうち、上記基準に2問以上該当する場合は、厚生労働省が定める基準において「機能低下」と評価。本調査では、21. 7%(220名)に口腔機能の低下が認められ、特に80代の割合が高くなっている。

(5) 歯の数と入れ歯の利用状況について教えてください (成人の歯の数は、親知らずを含めて32本です) 【N=1,011】

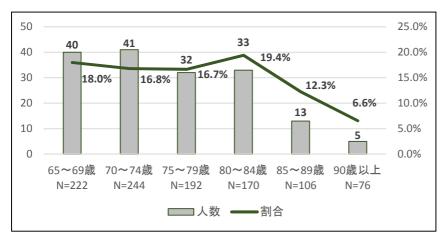
		今 回	H29 年度
1	歯は20本以上あり、	10.9%	12.1%
	入れ歯を使っている	(110名)	(113名)
2	歯は 20 本以上あり、	17.1%	16.4%
	入れ歯を使っていない	(173名)	(153名)
3	歯は19本以下で、入れ	50.5%	52.3%
	歯を使っている	(511名)	(489名)
4	歯は19本以下で、入れ	16.2%	14.9%
	歯を使っていない	(164名)	(139名)
	無回答	5.2% (53名)	4.4% (41名)



入れ歯を使っている方(歯の本数問わず)の年齢階級別割合【N=621】



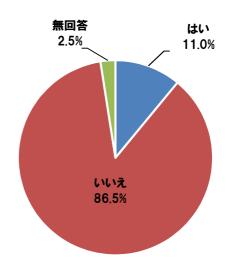
歯が 19 本以下で、入れ歯を使っていない方の年齢階級別割合【N=164】



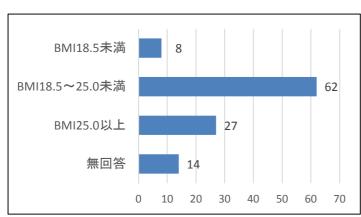
義歯の使用状況について、6割以上(621名)が義歯を使用していると回答。歯が19本以下にも関わらず、義歯を使用していない方は164名おり、年齢が若いほど、その傾向にある。

(6)6ヶ月間で2~3kg 以上体重が減りましたか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	はい	11.0% (111名)	1
2	いいえ	86.5% (875名)	_
	無回答	2.5% (25名)	



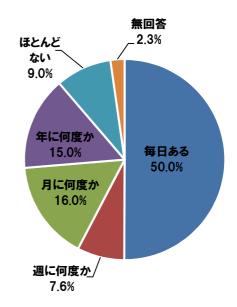
「1. はい」と回答した方の BMI(肥満度)別人数 【N=111】



半年間の体重減少を確認する問いに対し、約1割(111名)が2~3kg 減ったことに「はい」と回答。そのうち、8名は BMI が18.5未満となっており、厚生労働省が定める基準において、「低栄養」と評価される。

(7)だれかと一緒に食事をすることはありますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	毎日ある	50.0% (506名)	52.8% (494名)
2	週に何度かある	7.6% (77名)	9.7% (91名)
3	月に何度かある	16.0% (162名)	15.9% (149名)
4	年に何度かある	15.0% (152名)	12.6% (118名)
5	ほとんどない	9.0% (91名)	7.9% (74名)
	無回答	2.3% (23名)	1.0% (9名)



「4. 年に何度かある」「5. ほとんどない」と回答した方の外出頻度(問2(6)参照) 【N=243】

		今 回	H29 年度
1	ほとんど外出しない	14.4% (35名)	1
2	週1回	21.8% (53名)	_
3	週2~4回	43.2% (105名)	_
4	週5回以上	19.8% (48名)	1
	無回答	0.8% (2名)	_

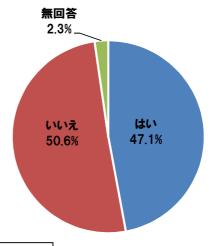
だれかと一緒に食事することはあるかとの問いについて、半数以上(506名)が「毎日ある」と回答したことに対し、24%(243名)は「年に何度かある」「ほとんどない」と回答。 4人に1人は孤食となっている。そのうち、88名は「週1回の外出」もしくは「ほとんど外出しない」状況にある。

問4

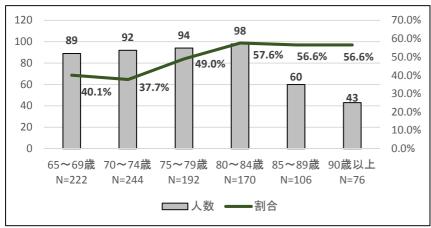
毎日の生活について

(1)もの忘れが多いと感じますか 【N=1,011】

,				
			今 回	H29 年度
	1	はい	47.1% (476名)	51.8% (484名)
	2	いいえ	50.6% (512名)	47.1% (440名)
		無回答	2.3% (23名)	1.2% (11名)



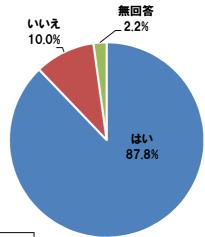
「1. はい」と回答した方の年齢階級別割合【N=476】



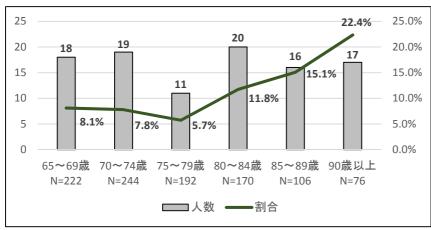
もの忘れが多いと感じるかの問いに対し、約半数(512名)が「いいえ」と回答する一方で、半数弱(476名)は「はい」と回答。前期高齢者(65~74歳)で4割(181名)、後期高齢者(75歳以上)で5割以上(295名)、もの忘れが多いと実感している。

(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしてますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	はい	87.7% (888名)	-
2	いいえ	10.0% (101名)	_
	無回答	2.2% (22名)	_



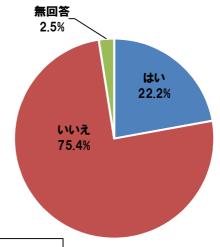
「2. いいえ」と回答した方の年齢階級別割合【N=101】



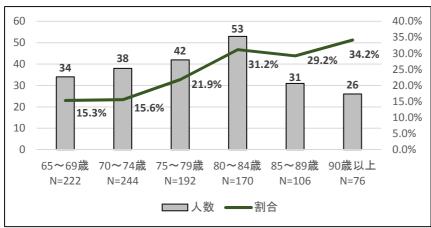
自分で電話番号を調べて、電話をかけることがあるかの問いに対しては、約9割(888名)は「はい」と回答。一方で、1割(101名)は「いいえ」を回答しており、年齢が上がるにつれて、行わなくなる傾向がある。

(3) 今日が何月何日か分からない時がありますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	はい	22.2% (224名)	_
2	いいえ	75.4% (762名)	_
	無回答	2.5% (25名)	_



「1. はい」と回答した方の年齢階級別割合【N=224】



今日が何月何日か分からない時があるかの問いでは、7割以上(762名)が「いいえ」 と回答しているのに対し、約2割(224名)は「はい」と回答。年齢階級別では、75~79 歳で約2割、80歳以上で約3割が日にちが分からない時があるとしている。

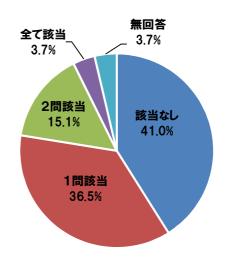
※問4(1)~(3)の設問において、次のように回答した方

(1)もの忘れが多いと感じますか

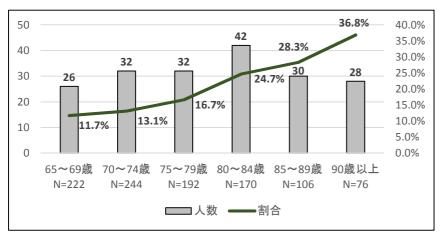
- ⇒ 「1. はい」
- (2)自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしてますか ⇒ 「2. いいえ」
- (3)今日が何月何日か分からない時がありますか

⇒ 「1. はい」

		今 回	H29 年度
1	該当なし	41.0% (415名)	I
2	1問該当	36.5% (369名)	1
3	2問該当	15.1% (153名)	_
4	全て該当	3.7% (37名)	I
	無回答	3.7% (37名)	



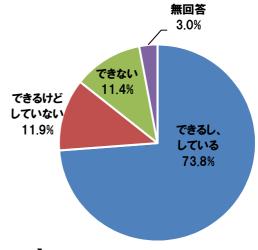
「2問該当」「全て該当」した方の年齢階級別割合【N=190】



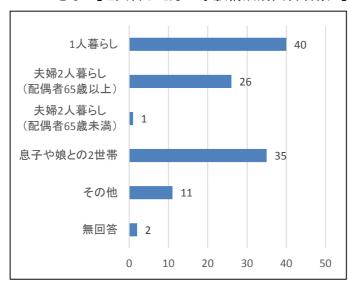
問4(1)から(3)までの認知機能をはかる設問のうち、上記基準に2問以上該当する場合は、「機能低下」と評価することとしたとき、190名が該当。年齢が上がるにつれ、認知機能の低下が見られる割合が増加している。

(4) 自分で車を運転したり、バスに乗って1人で外出してますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	できるし、 している	73.8% (746名)	73.7% (689 名)
2	できるけど していない	11.9% (120名)	12.2% (114名)
3	できない	11.4% (115名)	12.9% (121 名)
	無回答	3.0% (30名)	1.2% (11名)



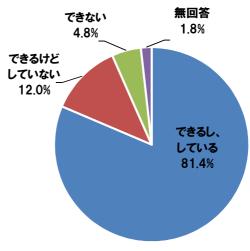
「3. できない」と回答した方の家族構成別回答者数【N=115】



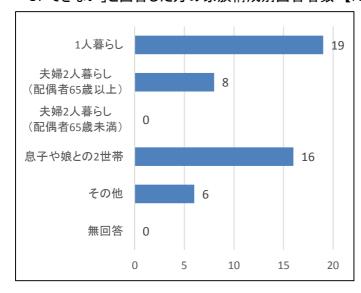
自家用車や公共交通機関を利用しての外出機会について、7割以上(746名)が「できるし、している」と回答。一方で、「できない」と回答した1割(115名)のうち、40名は「1人暮らし」、26名は「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」となっている。

(5) 自分で食品や日用品の買い物をしてますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	できるし、 している	81.4% (823名)	81.1% (758名)
2	できるけど していない	12.0% (121 名)	12.5% (117名)
3	できない	4.8% (49名)	5.7% (53名)
	無回答	1.8% (18名)	0.7% (7名)



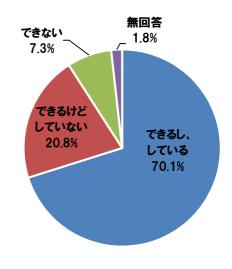
「3. できない」と回答した方の家族構成別回答者数【N=49】



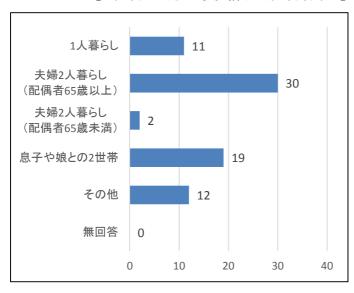
買い物を行っているかの問いについては、8割以上(823名)が「できるし、している」と回答。一方で、「できない」と回答した49名のうち、19名は「1人暮らし」、8名は「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」となっている。

(6)自分で食事の用意をしてますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	できるし、 している	70.1% (709名)	71.1% (665 名)
2	できるけど していない	20.8% (210名)	21.0% (196名)
3	できない	7.3% (74名)	7.4% (69名)
	無回答	1.8% (18名)	0.5% (5名)



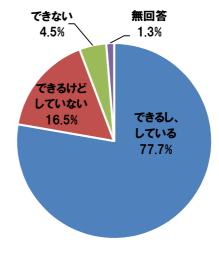
「3. できない」と回答した方の家族構成別回答者数【N=74】



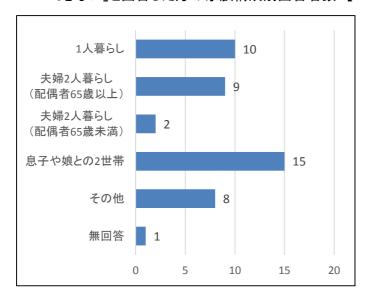
食事の用意については、7割以上(709名)が「できるし、している」と回答。一方で、「できない」と回答した74名のうち、11名は「1人暮らし」、30名は「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」となっている。

(7) 自分で請求書の支払をしてますか【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	できるし、 している	77.7% (786名)	77.1% (721 名)
2	できるけど していない	16.5% (167名)	16.0% (150名)
3	できない	4.5% (45名)	4.5% (42名)
	無回答	1.3% (13名)	2.4% (22名)



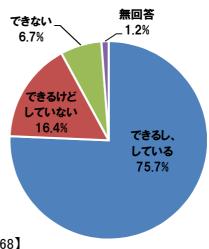
「3. できない」と回答した方の家族構成別回答者数【N=45】



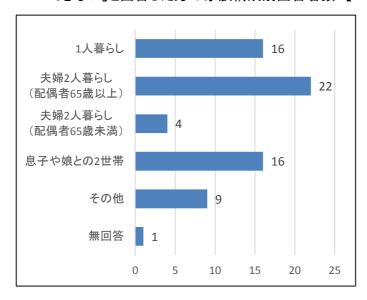
請求に対する支払いについては、約8割(786名)が「できるし、している」と回答。一方で、「できない」と回答した45名のうち、10名は「1人暮らし」、9名は「夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)」となっている。

(8) 自分で預貯金の出し入れをしてますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	できるし、 している	75.7% (765 名)	74.7% (698 名)
2	できるけど していない	16.4% (166名)	17.9% (167 名)
3	できない	6.7% (68名)	5.9% (55名)
	無回答	1.2% (12名)	1.6% (15名)



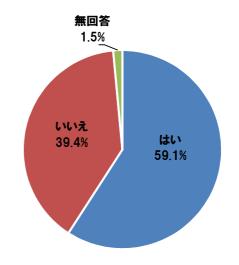
「3. できない」と回答した方の家族構成別回答者数【N=68】



預貯金の出し入れについては、7割以上(765名)が「できるし、している」と回答。一方で、「できない」と回答した68名のうち、16名は「1人暮らし」、22名は「夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)」となっている。

(9)友人の家を訪ねてますか 【N=1,011】

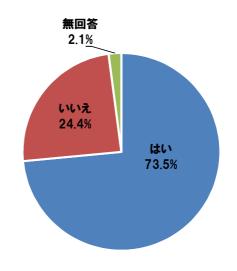
		今 回	H29 年度
1	はい	59.1% (598名)	
2	いいえ	39.4% (398名)	_
	無回答	1.5% (15名)	_



他者との関わりとして、友人宅へ訪問しているかの問いについては、6割(598名)が 「はい」と回答する一方で、4割(398名)は訪問していない状況。

(10)家族や友人の相談にのってますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	はい	73.5% (743名)	-
2	いいえ	24.4% (247 名)	_
	無回答	2.1% (21名)	



他者との関わりとして、家族や友人の相談にのっているかの問いについては、7割以上(743名)が「はい」と回答する一方で、4人に1人(247名)は「いいえ」と回答。

周5

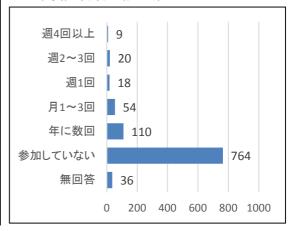
地域での活動について

(1)次のような会 やグループ、サークル活動などにどのくらい参加していますか【N=1,011】

①ボランティアのグループ

		今 回	H29 年度
1	週4回以上	0.9% (9名)	1.6% (15名)
2	週2~3回	2.0% (20名)	4.2% (39名)
3	週1回	1.8% (18名)	2.0% (19名)
4	月1~3回	5.3% (54名)	6.0% (56名)
5	年に数回	10.9% (110名)	11.1% (104名)
6	参加していない	75.6% (764名)	69.6% (651 名)
	無回答	3.6% (36名)	5.5% (51名)

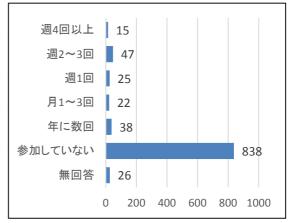
R2 年度回答者内訳人数



②運動関係のグループ(ゲートボールや卓球サークルなど)

		今 回	H29 年度
1	週4回以上	1.5% (15名)	3.3% (31名)
2	週2~3回	4.6% (47名)	5.7% (53名)
3	週1回	2.5% (25名)	6.6% (62名)
4	月1~3回	2.2% (22名)	4.5% (42名)
5	年に数回	3.8% (38名)	6.5% (61名)
6	参加していない	82.9% (838名)	69.3% (648名)
	無回答	2.6% (26名)	4.1% (38名)

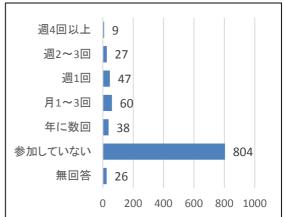
R2 年度回答者内訳人数



③趣味関係のグループ(カラオケや手芸サークルなど)

		今 回	H29 年度
1	週4回以上	0.9% (9名)	3.4% (32名)
2	週2~3回	2.7% (27名)	5.3% (50名)
3	週1回	4.6% (47名)	7.0% (65名)
4	月1~3回	5.9% (60名)	8.3% (78名)
5	年に数回	3.8% (38名)	7.6% (71名)
6	参加していない	79.5% (804名)	65.1% (609 名)
	無回答	2.6% (26名)	3.2% (30名)

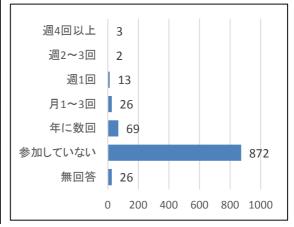
R2 年度回答者内訳人数



④学習・教養サークル(いきいき大学を含む)

		今 回	H29 年度
1	週4回以上	0.3% (3名)	0.2% (2名)
2	週 2 ~ 3 回	0.2% (2名)	1.1% (10名)
3	週1回	1.3% (13名)	2.5% (23名)
4	月1~3回	2.6% (26名)	3.0% (28名)
5	年に数回	6.8% (69名)	7.2% (67名)
6	参加していない	86.3% (872名)	81.7% (764名)
	無回答	2.6% (26名)	4.4% (41名)

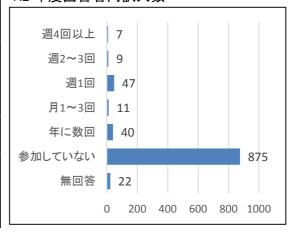
R2 年度回答者内訳人数



⑤介護予防のための通いの場(いきいき百歳体操など)

		今 回	H29 年度
1	週4回以上	0.7% (7名)	-
2	週 2 ~ 3 回	0.9% (9名)	_
3	週1回	4.6% (47名)	_
4	月1~3回	1.1% (11名)	
5	年に数回	4.0% (40名)	_
6	参加していない	86.5% (875名)	-
	無回答	2.2% (22名)	_

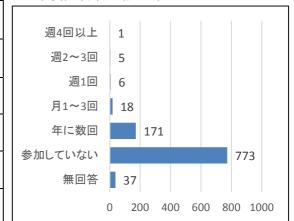
R2 年度回答者内訳人数



⑥老人クラブ

		今 回	H29 年度
1	週4回以上	0.1% (1名)	_
2	週 2 ~ 3 回	0.5% (5名)	
3	週1回	0.6% (6名)	_
4	月1~3回	1.8% (18名)	ı
5	年に数回	16.9% (171 名)	-
6	参加していない	76.5% (773名)	
	無回答	3.7% (37名)	

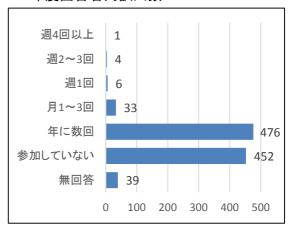
R2 年度回答者内訳人数



⑦町内会・自治会

		今 回	H29 年度
1	週4回以上	0.1% (1名)	
2	週2~3回	0.4% (4名)	_
3	週1回	0.6% (6名)	_
4	月1~3回	3.3% (33名)	_
5	年に数回	47.1% (476名)	ı
6	参加していない	44.7% (452名)	
	無回答	3.9% (39名)	_

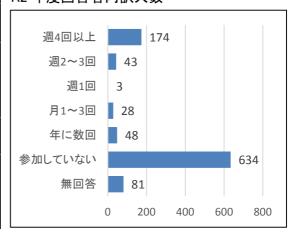
R2 年度回答者内訳人数



⑧お金をもらう仕事

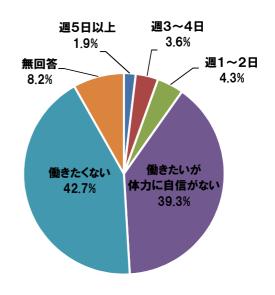
		今 回	H29 年度
1	週4回以上	17.2% (174名)	1
2	週2~3回	4.3% (43名)	I
3	週1回	0.3% (3名)	I
4	月1~3回	2.8% (28名)	I
5	年に数回	4.7% (48名)	1
6	参加していない	62.7% (634名)	ı
	無回答	8.0% (81名)	_

R2 年度回答者内訳人数



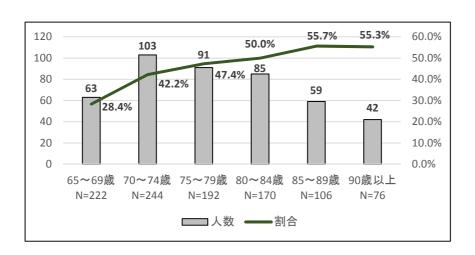
※「⑧お金をもらう仕事」で、「6.参加していない」と回答した方 今後、お金をもらう仕事をしてみたいと思いますか【N=634】

		今 回	H29 年度
1	週5日以上働きたい	1.9% (12名)	2.1% (13名)
2	週3~4日であれば 働きたい	3.6% (23名)	3.0% (19名)
3	週1~2日であれば 働きたい	4.3% (27名)	7.3% (46名)
4	働きたいが、体力に 自信がない	39.3% (249名)	45.8% (288名)
5	働きたくない	42.7% (271 名)	36.7% (231名)
	無回答	8.2% (52名)	5.1% (32名)



※H29 N=629

※問5(1)① \sim 8のうち、全てにおいて、「5. 年に数回」または「6. 参加していない」と回答した方の年齢階級別割合【N=443】

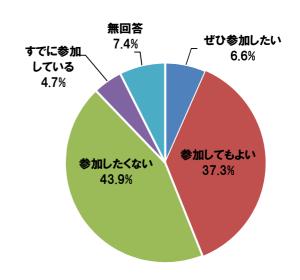


問5(1)①から⑧については、社会活動への参加状況に関する設問であり、前回調査時と比べ、「参加していない」と回答する方の割合が軒並み高くなっている。全てにおいて、「年に数回の参加」または「参加していない」と回答した方における年齢階級別では、年齢が高くなるにつれ参加率が低下し、80歳以上では、半数以上が殆ど参加していない状況である。

また、⑧お金をもらう仕事については、220名が週1回以上就労していると回答し、 現在、就労していないと回答した634名についても、うち311名は「働きたい(働きたい が体力に自信がないも含む)」と回答していることから、就労意欲は見られる。

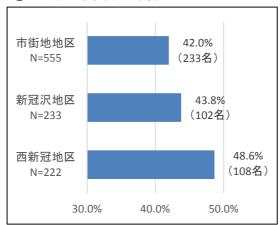
(2)地域住民で、健康づくりのための活動や趣味等のグループ活動を行って、 地域づくりを進めるとしたら、その活動に<u>参加者として</u>参加してみたいと思います か 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	ぜひ参加したい	6.6% (67名)	8.3% (78名)
2	参加してもよい	37.3% (377名)	43.7% (409名)
3	参加したくない	43.9% (444 名)	43.0% (402名)
4	すでに参加している	4.7% (48名)	l
	無回答	7.4% (75名)	4.9% (46名)



「1. ぜひ参加したい」または「2. 参加してもよい」と回答した方 【N=444】

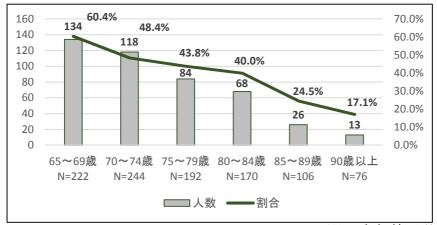
① 日常生活圏域別割合



※ 1名居住地区不明

地域づくりへの参加意欲について、4 割以上(444名)が「ぜひ参加したい」または「参加してもよい」と回答しており、年齢階級別でも、60代の6割以上がそう回答している。日常生活圏域別では、特に西新冠地区が高く、次いで新冠沢地区となっている。

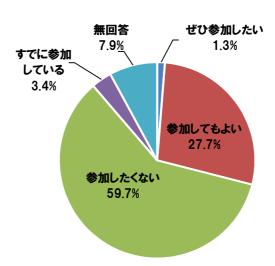
② 年齢階級別割合



※ 1名年齢不明

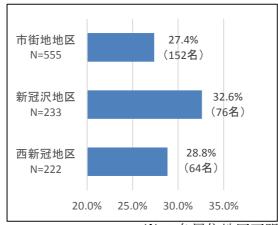
(3) 地域住民で、健康づくりのための活動や趣味等のグループ活動を行って、 地域づくりを進めるとしたら、その活動に<u>企画・運営(お世話役)</u>として参加して みたいと思いますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	ぜひ参加したい	1.3% (13名)	3.5% (33名)
2	参加してもよい	27.7% (280名)	31.6% (295名)
3	参加したくない	59.7% (604名)	58.0% (542名)
4	すでに参加している	3.4% (34名)	l
	無回答	7.9% (80名)	7.0% (65名)



「1. ぜひ参加したい」または「2. 参加してもよい」と回答した方【N=293】

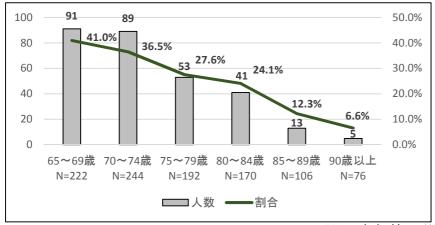
① 日常生活圏域別割合



※ 1名居住地区不明

自分が主体となって、地域づくりを行うことについて、3割弱(293名)が「ぜひ参加したい」または「参加してもよい」と回答しており、(2)の設問と同様に、60代に意向の高さが見られる。日常生活圏域別では、特に新冠沢地区が最も高く、次いで西新冠地区となっている。

② 年齢階級別割合

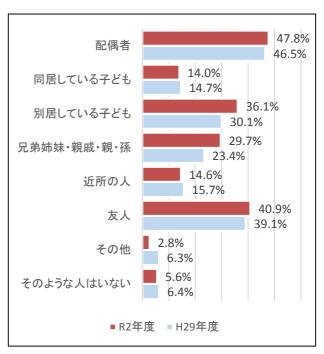


※ 1名年齢不明

問6 まわりの人との助け合いについて

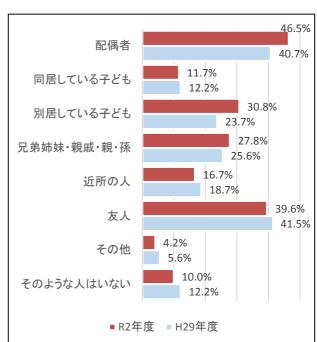
(1)あなたの心配事やグチを聞いてくれる人はいますか (複数回答)

		今 回	H29 年度
1	配偶者	47.8% (483名)	46.5% (435名)
2	同居している子ども	14.0% (142名)	14.7% (137名)
3	別居している子ども	36.1% (365名)	30.1% (281名)
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	29.7% (300名)	23.4% (219名)
5	近所の人	14.6% (148名)	15.7% (147名)
6	友人	40.9% (413名)	39.1% (366名)
7	その他	2.8% (28名)	6.3% (59名)
8	そのような人はいない	5.6% (57名)	6.4% (60名)



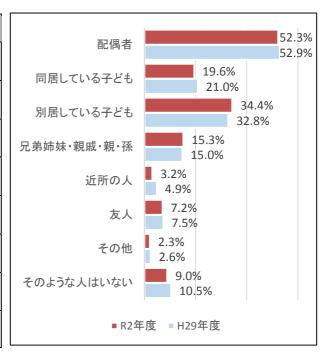
(2)反対に、あなたが心配事やグチを聞いてあげる人はいますか (複数回答)

		今 回	H29 年度
1	配偶者	46.5% (470名)	40.7% (381名)
2	同居している子ども	11.7% (118名)	12.2% (114名)
3	別居している子ども	30.8% (311名)	23.7% (222名)
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	27.8% (281名)	25.6% (239名)
5	近所の人	16.7% (169名)	18.7% (175名)
6	友人	39.6% (400名)	41.5% (388名)
7	その他	4.2% (42名)	5.6% (52名)
8	そのような人はいない	10.0% (101名)	12.2% (114名)



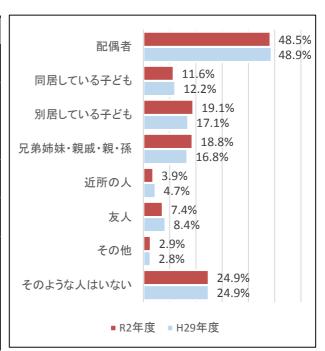
(3) あなたが病気で数日間寝込んだとき、<u>看病や世話をしてくれる人</u>はいますか (複数回答)

		今 回	H29 年度
1	配偶者	52.3% (529名)	52.9% (495名)
2	同居している子ども	19.6% (198名)	21.0% (196名)
3	別居している子ども	34.4% (348名)	32.8% (307名)
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	15.3% (155名)	15.0% (140 名)
5	近所の人	3.2% (32名)	4.9% (46名)
6	友人	7.2% (73名)	7.5% (70名)
7	その他	2.3% (23名)	2.6% (24名)
8	そのような人はいない	9.0% (91名)	10.5% (98名)



(4)反対に、看病や世話をしてあげる人はいますか (複数回答)

		今 回	H29 年度
1	配偶者	48.5% (490名)	48.9% (457名)
2	同居している子ども	11.6% (117名)	12.2% (114名)
3	別居している子ども	19.1% (193名)	17.1% (160名)
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	18.8% (190名)	16.8% (157名)
5	近所の人	3.9% (39名)	4.7% (44名)
6	友人	7.4% (75名)	8.4% (79名)
7	その他	2.9% (29名)	2.8% (26名)
8	そのような人はいない	24.9% (252名)	24.9% (233名)

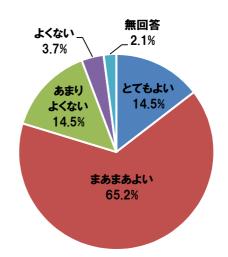


助け合いの状況を問う設問に対し、グチを聞いてくれる、または聞いてあげる人の存在については、「配偶者」が最も多く、次いで「友人」「別居している子ども」となっており、前回調査時と比べ、「そのような人はいない」とする割合は減っている。同様に、看病してくれる、またはしてあげる人の存在についても「配偶者」が最も多くなっている。

問7 健康について

(1) あなたの現在の健康状態はどうですか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	とてもよい	14.5% (147 名)	14.0% (131 名)
2	まあまあよい	65.2% (659名)	65.7% (614名)
3	あまりよくない	14.5% (147名)	16.4% (153名)
4	よくない	3.7% (37名)	3.1% (29名)
	無回答	2.1% (21名)	0.9% (8名)

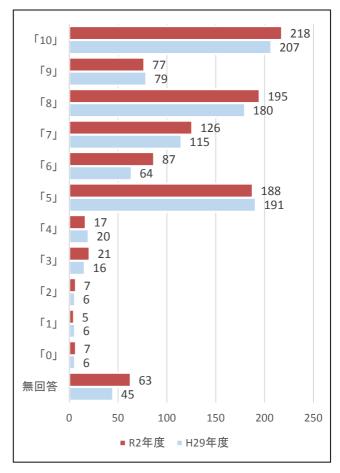


主観的健康観について、8割(806名)が「とてもよい」「まあまあよい」と回答。前回調査時と比べても大きな差はない結果となっている。

(2) あなたは、現在どのくらい「幸せ」ですか(10点満点で)【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	Г 10 」	21.6% (218名)	22.1% (207名)
2	「 9 」	7.6% (77名)	8.4% (79名)
3	[8]	19.3% (195名)	19.3% (180名)
4	「7」	12.5% (126名)	12.3% (115名)
5	「6」	8.6% (87名)	6.8% (64名)
6	Г5]	18.6% (188名)	20.4% (191名)
7	「4」	1.7% (17名)	2.1% (20名)
8	[3]	2.1% (21名)	1.7% (16名)
9	Г2 」	0.7% (7名)	0.6% (6名)
10	「1」	0.5% (5名)	0.6% (6名)
11	L 0]	0.7% (7名)	0.6% (6名)
	無回答	6.2% (63名)	4.8% (45名)

R2 年度及び H29 年度回答者内訳

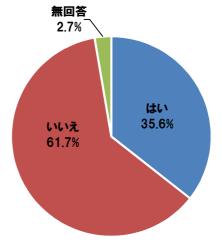


主観的幸福感について、2割以上(218名)が10点満点中「10」と回答。回答者の平均は、「7.31」となっており、前回調査時の「7.32」と比べても大きな差はない結果となっている。

(3)この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることはありますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	はい	35.6% (360名)	30.4% (284名)
2	いいえ	61.7% (624名)	67.9% (635名)
	無回答	2.7% (27名)	1.7% (16名)

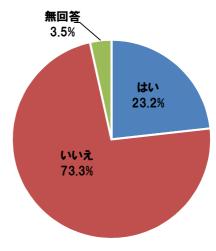
3割以上(360名)が「はい」と回答しており、前回調査時よりも高い割合となっている。



(4)この1か月間、どうしても物事に興味がわかなかったり、心から楽しめないと感じることがよくありましたか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	はい	23.2% (235名)	18.5% (173名)
2	いいえ	73.3% (741 名)	78.8% (737 名)
	無回答	3.5% (35名)	2.7% (25名)

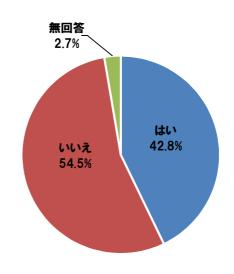
2割以上(235名)が「はい」と回答しており、前回調査時よりも高い割合となっている。



(5)この1か月間、以前は楽にできていたことがおっくうに感じることがありましたか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	はい	23.2% (235名)	_
2	いいえ	73.3% (741 名)	_
	無回答	3.5% (35名)	_

2割以上(235名)が「はい」と回答している。



(6)この1か月間、自分が役に立つ人間だと思えないと感じることがありましたか

 今回
 H29年度

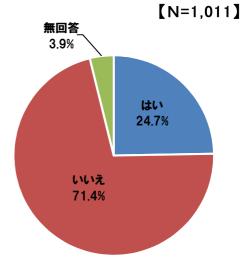
 1 はい
 24.7% (250名)

 2 いいえ
 71.4% (722名)

 無回答
 3.9% (20名)

2割以上(250名)が「はい」と回答している。

(39名)

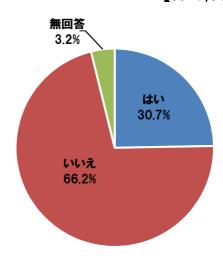


(7)この1か月間、わけもなく疲れたような感じがすることがありましたか

[N=1,011]

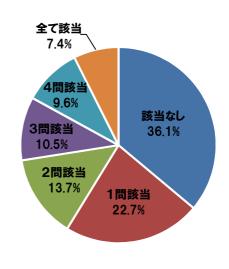
		今 回	H29 年度
1	はい	30.7% (310名)	_
2	いいえ	66.2% (669名)	_
	無回答	3.2% (32名)	_

3割(310名)が「はい」と回答している。



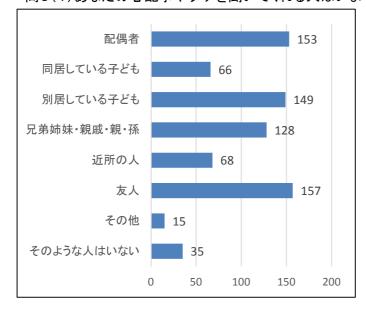
- ※問7(3)~(7)の設問において、「1. はい」と回答した方
 - (3)この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることはありますか
 - (4)この1か月間、どうしても物事に興味がわかなかったり、心から楽しめないと感じることがよくありましたか
 - (5)この1か月間、以前は楽にできていたことがおっくうに感じることがありましたか
 - (6)この1か月間、自分が役に立つ人間だと思えないと感じることがありました か
 - (7)この1か月間、わけもなく疲れたような感じがすることがありましたか

		今 回	H29 年度
1	該当なし	36.1% (365名)	l
2	1問該当	22.7% (229 名)	l
3	2問該当	13.7% (139 名)	
4	3問該当	10.5% (106名)	ı
5	4問該当	9.6% (97名)	
6	全て該当	7.4% (75名)	<u> </u>



2問以上該当した方について【N=417】

「問6(1)あなたの心配事やグチを聞いてくれる人はいますか」の回答者数内訳 (複数回答)

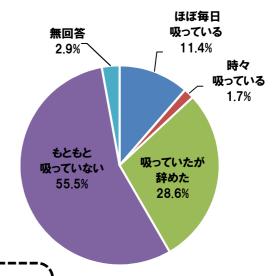


問7(3)から(7)までのうつ傾向を問う設問のうち、2問以上「はい」と該当する場合は、厚生労働省が定める基準において「機能低下」と評価。本調査では、41.2%(417名)にうつ傾向が認められる。

また、そのような状況でも、心配 事やグチを聞いてくれる人がいる かの問いについては、大半が「い る」と回答しているものの、35名は 「そのような人はいない」と回答して いる。

(8)タバコは吸ってますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	ほぼ毎日吸っている	11.4% (115名)	9.1% (85名)
2	時々吸っている	1.7% (17名)	2.2% (21名)
3	吸っていたが辞めた	28.6% (289名)	29.0% (271名)
4	もともと吸っていない	55.5% (561名)	56.8% (531名)
	無回答	2.9% (29名)	2.9% (27名)



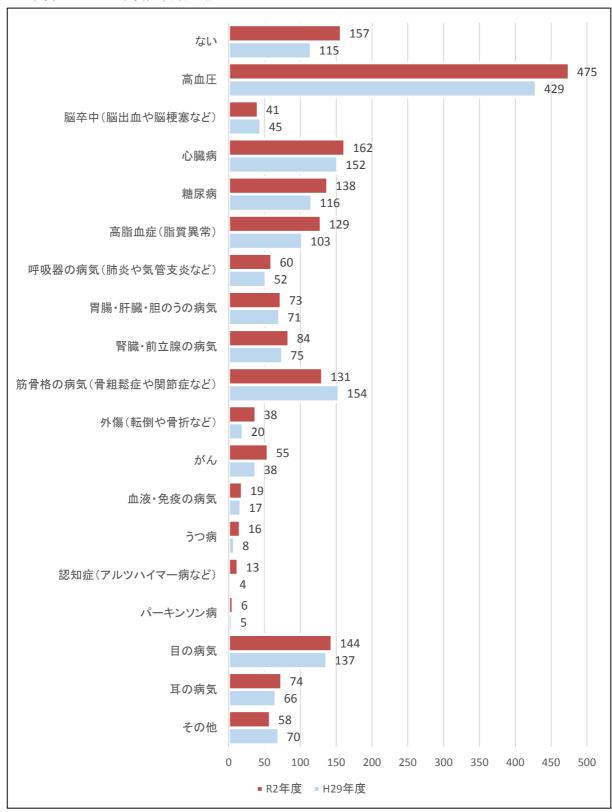
タバコの習慣についての問いに対し、1割以上(132名)が「ほぼ毎日吸っている」「時々吸っている」と回答し、前回調査時と比べても喫煙率が若干上がっているとみられる。

(9)現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (複数回答)

		今 回	H29 年度
1	ない	15.5% (157名)	12.3% (115名)
2	高血圧	47.0% (475名)	45.9% (429名)
3	脳卒中	4.1%	4.8%
	(脳出血や脳梗塞など)	(41名)	(45 名)
4	心臓病	16.0% (162名)	16.3% (152名)
5	糖尿病	13.6% (138名)	12.4% (116名)
6	高脂血症	12.8%	11.0%
	(脂質異常)	(129名)	(103名)
7	呼吸器の病気	5.9%	5.6%
	(肺炎や気管支炎など)	(60名)	(52名)
8	胃腸・肝臓・	7.2%	7.6%
	胆のうの病気	(73名)	(71名)
9	腎臓・前立腺の	8.3%	8.0%
	病気	(84名)	(75 名)
10	筋骨格の病気	13.0%	16.5%
	(骨粗鬆症など)	(131名)	(154名)

		今 回	H29 年度
11	外傷 (転倒・骨折など)	3.8% (38名)	2.1% (20名)
12	がん	5.4% (55名)	4.1% (38名)
13	血液・免疫の 病気	1.9% (19名)	1.8% (17名)
14	うつ病	1.6% (16名)	0.9% (8名)
15	認知症 (アルツハイマー病)	1.3% (13名)	0.4% (4名)
16	パーキンソン 病	0.6% (6名)	0.5% (5名)
17	目の病気	14.2% (144名)	14.7% (137名)
18	耳の病気	7.3% (74名)	7.1% (66名)
19	その他	5.7% (58名)	7.5% (70名)

R2 年度及び H29 年度回答者内訳



現在治療中の病気等については、「高血圧」(475名)が最も多く、「心臓病」(162名)、「目の病気」(144名)、「糖尿病」(138名)と続いている。前回調査では、「高血圧」に次いで「筋骨格の病気」を選択する方が多かったが、今回、若干減少している。

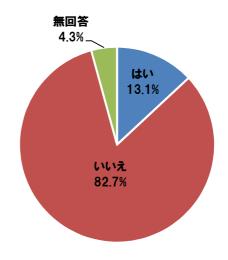
問8

認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 自分に認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	はい	13.1% (132名)	1
2	いいえ	82.7% (836名)	_
	無回答	4.3% (43名)	1

家族を含め、認知症の有無について、1割以上(132名)が「はい」と回答。



無回答 4.7%

> いいえ 57.3%

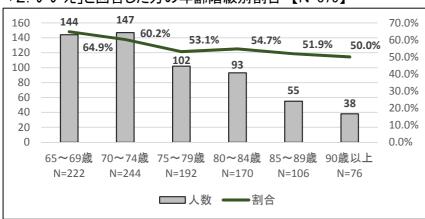
はい 38.0%

(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	はい	38.0% (384名)	1
2	いいえ	57.3% (579名)	_
	無回答	4.7% (48名)	

「2. いいえ」と回答した方の年齢階級別割合【N=579】

半数以上は知らないとされている。



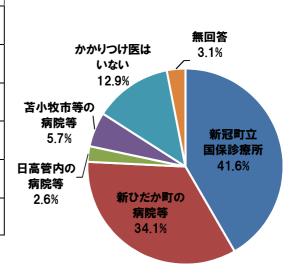
■人数 ●割合 認知症に関する相談窓口を知っているかの問いに対し、4割弱(384名)が「はい」と 回答する一方で、6割弱(579名)は「いいえ」と回答。年齢階級別でも、全世代において

問9

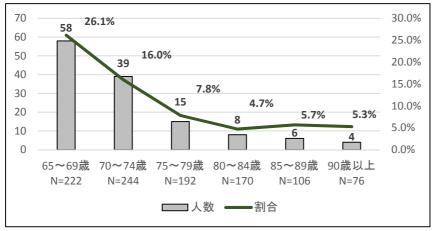
医療のことについて

(1)かかりつけ医はいますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	新冠町立国保診療所の医師	41.6% (421名)	39.7% (371 名)
2	新ひだか町の病院等の医師	34.1% (345名)	35.1% (328 名)
3	日高管内(新冠町・新ひだか 町以外)の病院等の医師	2.6% (26名)	3.7% (35名)
4	苫小牧市や札幌市などの病 院等の医師	5.7% (58名)	7.5% (70名)
5	かかりつけ医はいない	12.9% (130名)	11.0% (103名)
	無回答	3.1% (31名)	3.0% (28名)



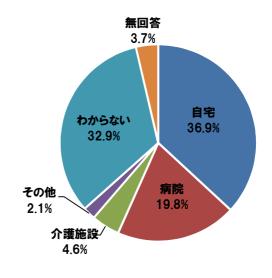
「5. かかりつけ医はいない」と回答した方の年齢階級別割合【N=130】



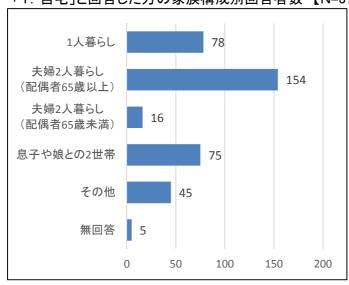
かかりつけ医の有無について、4割(421名)は「新冠町立国保診療所」と回答し、次いで「新ひだか町の病院等」となっている。一方で、1割以上(130名)が「かかりつけ医はいない」と回答し、年齢が若いほど、その傾向にある。

(2)人生の最期を迎える場所として、どこを希望しますか 【N=1,011】

		今 回	H29 年度
1	自宅	36.9% (373名)	39.8% (372名)
2	病院	19.8% (200名)	17.6% (165名)
3	介護施設	4.6% (47名)	7.5% (70名)
4	その他	2.1% (21名)	0.2% (2名)
5	分からない	32.9% (333名)	31.8% (297名)
	無回答	3.7% (37名)	3.1% (29名)



「1. 自宅」と回答した方の家族構成別回答者数 【N=373】



人生の最期を迎える場所として、「自宅」(373名)が最も多く、次いで「病院」となっている。また、3割(333名)の方は「分からない」と回答している。

「自宅」を選択した回答者の家族構成については、「夫婦2人くらし(配偶者65歳以上)」が最も多かったが、「1人暮らし」も78名いる状況である。

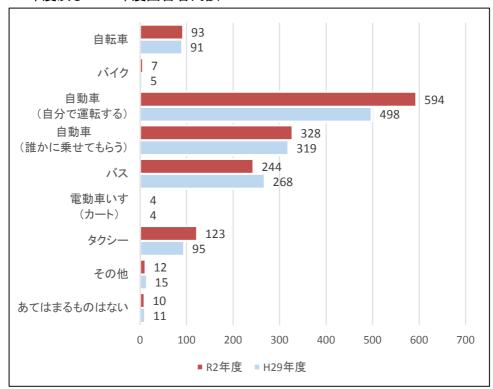
問 10 外出する手段について

(1)次のうち、外出する際に利用する乗り物はありますか (複数回答)

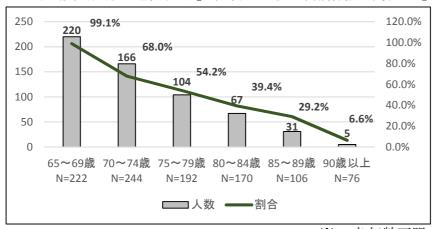
		今 回	H29 年度
1	自転車	9.2% (93名)	9.7% (91名)
2	バイク	0.7% (7名)	0.5% (5名)
3	自動車 (自分で運転する)	58.8% (594名)	53.3% (498名)
4	自動車 (誰かに乗せてもらう)	32.4% (328名)	34.1% (319名)
5	バス	24.1% (244名)	28.7% (268名)

		今 回	H29 年度
6	電動車いす (カート)	0.4% (4名)	0.4% (4名)
7	タクシー	12.2% (123名)	10.2% (95名)
8	その他	1.2% (12名)	1.6% (15名)
9	あてはまるもの はない	1.0% (10名)	1.2% (11名)

R2 年度及び H29 年度回答者内訳



「3. 自動車(自分で運転する)」と回答した方の年齢階級別割合 【N=594】



※ 1名年齢不明

移動手段については、前回調査時と同様に「自動車(自分で運転する)」との回答が6割(594名)と最も多く、「自動車(誰かに乗せてもらう)」「バス」と続いている。

また、「自動車(自分で運転する)」と回答した方の年齢階級では、年齢が上がるにつれて割合は低くなるものの、85歳以上でも約3割が自分で運転している状況。

(2)「3. 自動車(自分で運転する)」と回答した方にうかがいます。 運転免許を返納する時期はどうお考えですか (現在の考えに近いもの) 【N=594】

		今 回	H29 年度
1	ある程度年齢がきたら (免許更新に合わせて)	32.2% (191名)	33.3% (166名)
2	判断力が衰え、自信がなくなったら	46.0% (273名)	44.4% (221 名)
3	体力が衰え、自信がなくなったら	8.2% (49名)	9.6% (48名)
4	家族など、誰かに指摘されたら	1.7% (10名)	2.0% (10名)
5	その他	6.6% (39名)	1.6% (8名)
6	考えていない	4.9% (29名)	7.0% (35名)
	無回答	0.5% (3名)	2.0% (10名)

%H29 N=498

免許返納に関する意向については、4割以上(273名)が「判断力が衰え、自信がなくなったら」と回答し、次いで「ある程度年齢がきたら」となっている。

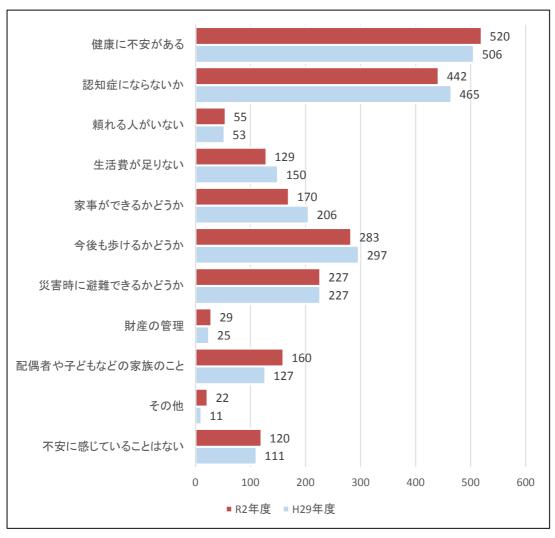
間 11 これからのことについて

(1)これからの生活において、不安に感じていることはなんですか (複数回答)

		今 回	H29 年度
1	健康に不安がある	51.4% (520名)	54.1% (506名)
2	認知症にならないか	43.7% (442名)	49.7% (465名)
3	頼れる人がいない	5.4% (55名)	5.7% (53名)
4	生活費が足りない	12.8% (129名)	16.0% (150名)
5	家事ができるかど うか	16.8% (170名)	22.0% (206名)
6	今後も歩けるかど うか	28.0% (283 名)	31.8% (297名)

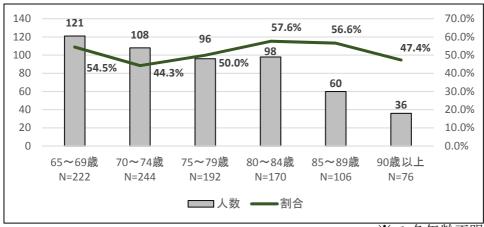
		今 回	H29 年度
7	災害時に避難でき るかどうか	22.5% (227名)	24.3% (227 名)
8	財産の管理	2.9% (29名)	2.7% (25名)
9	配偶者や子どもなどの家族のこと	15.8% (160名)	13.6% (127 名)
10	その他	2.2% (22名)	1.2% (11名)
11	不安に感じている ことはない	11.9% (120名)	11.9% (111名)

R2 年度及び H29 年度回答者内訳



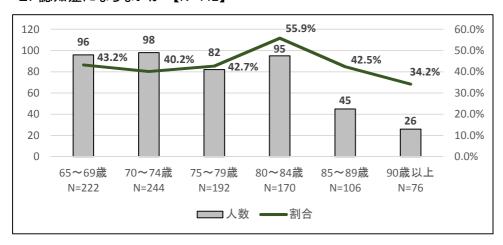
各項目の年齢階級別割合

1. 健康について【N=520】

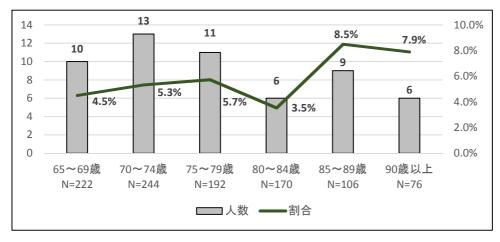


※ 1名年齢不明

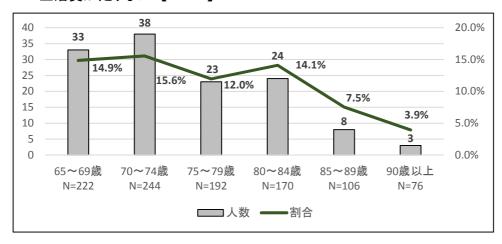
2. 認知症にならないか 【N=442】



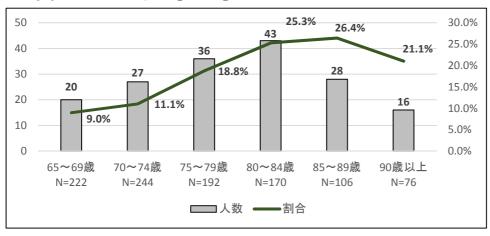
3. 頼れる人がいない【N=55】



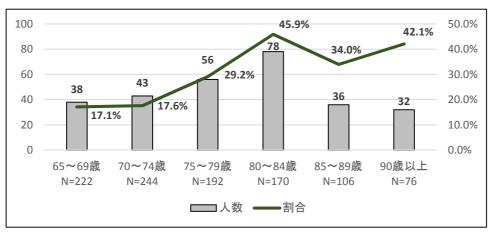
4. 生活費が足りない【N=129】



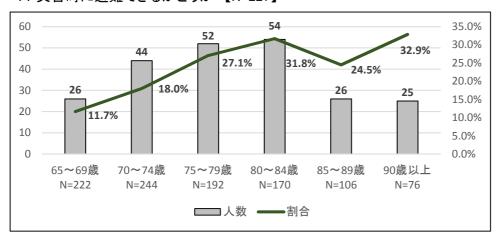
5. 家事ができるかどうか【N=170】



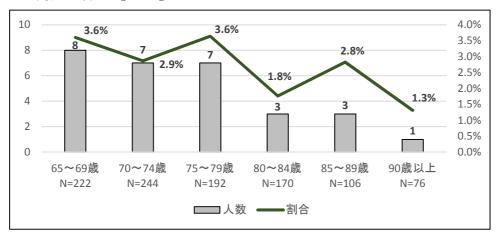
6. 今後も歩けるかどうか【N=283】



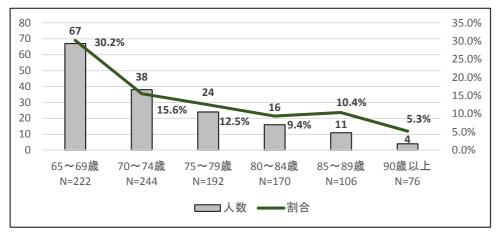
7. 災害時に避難できるかどうか 【N=227】



8. 財産の管理【N=29】

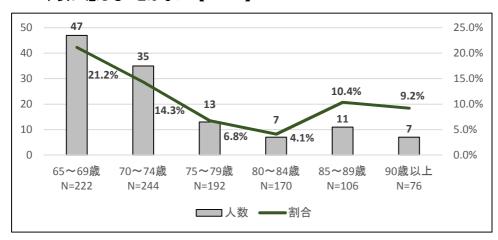


9. 配偶者や子どもなどの家族のこと【N=160】



10. その他【N=22】 省略

11. 不安に感じることはない【N=120】



これからの生活で不安に感じていることに関する問いに対し、前回調査時同様、半数以上(520名)が「健康」と回答しており、「認知症」(442名)、「今後も歩けるか」(283名)、「災害時の避難」(227名)と続いている。

「健康」では、全体を通して半数以上が将来的に不安を感じており、特に80代の6割近くがそう感じている。

「認知症」については、60代、70代では4割の方が不安に感じており、80代前半になると半数以上がそう感じている。

「頼れる人がいない」ことについては、年齢が上がるにつれて不安を感じている方の割合が高くなり、特に80代後半以降は、他の年齢層より高くなる。

「生活費」については、60代から80代前半まで、それぞれのおおよそ15%で一定推移し、逆に85歳以上を超えると割合は低くなる。

「家事ができるか」については、年齢とともに不安を感じる方の割合が増加し、ピークの80代前半では、4人に1人がそう感じている。

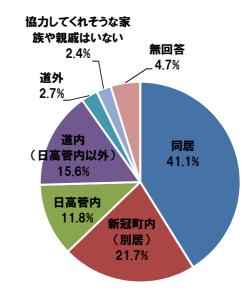
「今後も歩けるか」については、70代後半から顕著に不安に感じる割合が増加し、80代前半では、4割以上がそう感じている。

「災害時の避難」については、年齢が上がるにつれて不安に感じる方の割合が増している。

「財産管理」に不安を感じている方は、全体を通じて29名と最も少ない状況。 「家族のこと」と回答した方について、60代の3割が将来的な不安を感じており、年齢が上がるにつれてその割合は低くなっていく。

(2)何か困ったときに協力してくれる(一番頼りにしている)家族や親戚は、どちらにお住まいですか 【N=1.011】

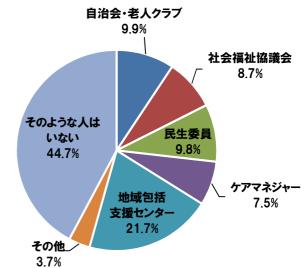
		今 回	H29 年度
1	同居している	41.1% (416名)	39.9% (373名)
2	新冠町内 (別居している)	21.7% (219名)	22.9% (214名)
3	日高管内	11.8% (119名)	14.0% (131名)
4	道内 (日高管内以外)	15.6% (158名)	14.4% (135名)
5	道外	2.7% (27名)	2.4% (22名)
6	国外	0.0% (0名)	0.0% (0名)
7	協力してくれそうな 家族や親戚はいない	2.4% (24名)	2.6% (24名)
	無回答	4.7% (48名)	3.9% (36名)



困ったときに協力してくれる家族について、4割(416名)が「同居している」と回答。一方で、24名は「協力してくれそうな家族はいない」と回答している。

(3)何か困ったことがあった時に、家族や親戚、友人以外で相談する方はいますか (複数回答)

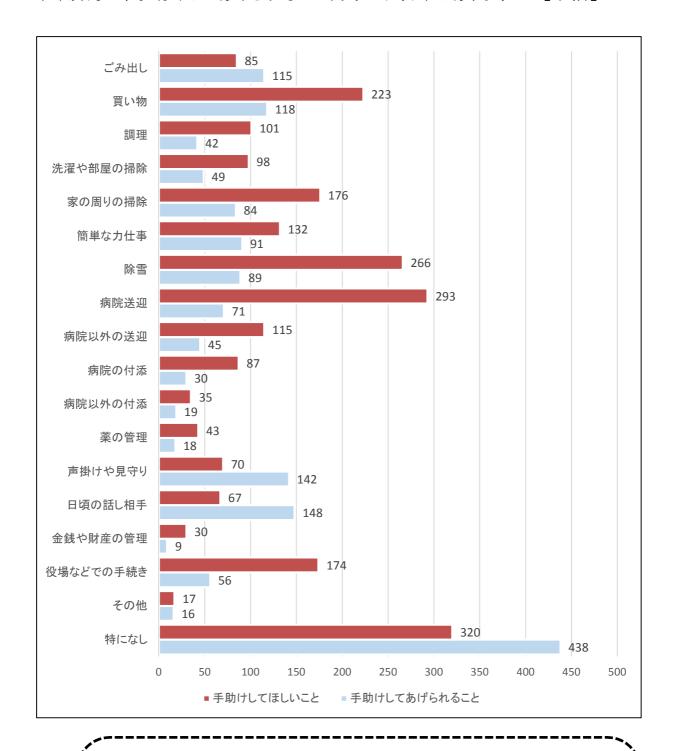
		今 回	H29 年度
1	自治会・老人クラブ	9.9% (100名)	9.5% (89名)
2	社会福祉協議会	8.7% (88名)	7.9% (74名)
3	民生委員	9.8% (99名)	11.0% (103名)
4	ケアマネジャー	7.5% (76名)	6.7% (63名)
5	地域包括支援センター	21.7% (219名)	19.3% (180名)
6	その他	3.7% (37名)	4.9% (46名)
7	そのような人はいない	44.7% (452名)	43.2% (404名)



困ったときの相談先について、2割以上(219名)が「地域包括支援センター」と回答し、その一方で、4割以上(452名)は「いない」と回答している。

(4) 将来、手助けしてほしいこと(手助けが必要となること)はありますか 【上段】

(5) 反対に、手助けしてあげられること(ボランティア) はありますか 【下段】



将来、手助けが必要となると思われることについて、「病院送迎」(293名)が最も多く、「除雪」(266名)、「買い物」(223名)と続いている。

反対に、手助けしてあげられることについては、「日頃の話し相手」(148名)が最も多く、「声掛けや見守り」(142名)、「買い物」(118名)と続いている。

また、殆どの項目において、手助けしてほしい方の数に対し、手助けしてあげられる 方の数が足りず、特に「病院送迎」、「除雪」、「役場などでの手続き」、「買い物」につい ては、その差が大きい。

(6)介護を必要としない健康な生活が送れるよう、心掛けていることはありますか (複数回答)

		今 回	H29 年度
1	栄養バランスのとれた食事をとっている	50.6% (512名)	49.9% (467名)
2	意識してよく噛んで食べるようにしている	30.2% (305名)	28.6% (267名)
3	散歩など、できる限り歩くようにしている	42.0% (425名)	44.4% (415名)
4	体力をつけるための体操や運動をしている	27.7% (280 名)	29.1% (272名)
5	普段の通院とは別に、定期的に健康診断を受けている	21.8% (220名)	22.6% (211名)
6	十分な睡眠をとっている	47.2% (477 名)	45.7% (427名)
7	趣味や地域活動のため、積極的に外出している	14.1% (143名)	19.7% (184名)
8	新聞等を読んだり、脳を多く使うよう意識している	54.8% (554名)	54.1% (506名)
9	町が主催する「お喜楽☆おたっしゃ塾」や「脳 の元気アップ教室」に参加している	6.4% (65名)	9.3% (87名)
10	その他	2.8% (28名)	3.5% (33名)
11	特に心掛けていることはない	10.6% (107名)	7.4% (69名)

介護予防に心掛けている内容として、「脳を多く使うよう意識している」(554名)と回答した方が最も多く、「栄養バランスのとれた食事」(512名)、「十分な睡眠」(477名)、「歩くようにしている」(425名)と続いている。

自由記述

【介護サービスに関すること】

- ・ 夫婦 2 人暮らしなので介護・介助が必要になった場合、恵寿荘に入れる様にしてほしい。
- 入りたいと思ったときになかなか施設に入れないので心配。
- ・ (家族記載)手の骨折後、足の骨折も不安がり、こもりがちになっていた母がデイサービスを利用 し始め笑顔も増え前向きになった。家族もゆったりした気分になっている。
- ・国の施策としてきちんとやってほしい。介護保険料や利用料が上がり、保険でできる範囲は縮小された。制度利用の局面で役に立たなくなっていては話にならない。1. 介護保険料引き下げ、2. 利用者負担原則 1 割を守る、3. 食費の自己負担を増やさない、4. 介護定員を増やし待遇改善を。
- ・町民であっても施設に満員で入れず、隣町の施設に何とか入所したことがあった。住民が安心し、老後の心配がないように施設増設ができないのかと思う。親の介護をするのは子どもと思ってはいても経験すると大変で、やはりプロにお願いしたいし、自分も将来はお世話になりたいと思う。今65歳すぎたばかりの人は自分が80歳を過ぎた頃行き先がないのではと心配している人が多いように感じる。
- ・ 何年か前に母が寝たきりになり介護が必要になった際、自宅で看られず恵寿荘への入所を希望したが、他市町村の人が先に入った。町の施設でありながら他町村の方が先となり釈然としない。自分も、高齢になり動けなくなったらと不安だ。他町では、住民優先と言われ、新冠町は順番と言われた。町民が安心していられる様、もう一度見直してほしい。新冠町民で良かったと思える町であってほしい。
- ・デイサービスでは大変お世話、お手数かけております。ありがとうございます。

【外出に関すること】

- ・メロディー号、もう少し回数を多く走ってほしい。
- ・この街は緑豊かで良いが過疎に住居があると交通の便がなく、色々な催しに参加できないため 乗合タクシーがあればと思う。高齢者をどんどん外に出して元気にさせてほしい。
- ・ 温泉に行きたいけど帰りのバスが心配。行きはメロディー号高江会館前 9:58 で行けるが、帰り は温泉前 13:26 しかなく時間がありすぎる。
- 今のところ歩けるが、歩けず外出ができなくなったら、よろしく願いしたい。

- ・ 今年中に免許返納を予定しているが、その後の生活に不安がある。体操等への参加も辞めることになると思う。 夕日ヶ丘にバス停ができると良い。
- ・ハイヤーの割引券があると助かる。買い物をするときにバスだと本数が少ないので。

【通院に関すること】

- ・ 新冠国保診療所の整形外科に通いたいが、金曜日と水曜日はバスがないのでどうにかならないか。
- ・ 白内障で手術の際、眼科まで送迎してもらえるだろうか。時間予約があり、3 日位は運転できなくなるので心配。
- ・ 札幌や苫小牧の病院への送迎バスを月1回出しては。
- ・新冠町に耳鼻咽喉科がないのが非常に残念。以前新ひだか町に受診したが、初診であったためか 3 時間待ち疲れ果てた。軽い風邪は内科ではなく耳鼻科にかかることにしているので、耳鼻咽頭科ができることを希望する。
- ・ 医者の入れ替わりが多い。待合室・便所等狭い。診察室も個室ではなく情報漏えいの危険がある。待ち時間が長い。従って他町の医療機関に受診した。
- ・軽度の外科手術は診療所でできるようになってほしい。

【買い物に関すること】

- ・ 買い物はメロディー号でもできるが、ティッシュペーパー等は大きな荷物になり、水物も重いので月に 1~2 回程度、買物車(メロディー号のように)があればよい。
- ・ 静内の大型スーパーなどへの送迎バスがあると大変助かる(有料で)
- ・ 週 1~2 回程度で移動販売車利用したい。
- ・買い物は隣町へ。経済の流動で町の財政政策等に不安がある。

【町事業等に関すること】

・ 高齢者は身体を動かす機会が少ないので、お喜楽☆おたっしゃ塾の体操は大変良かった。いきいき大学の内容は少し幼稚っぽい。参加する人は割合元気な方が多いので、教養を高めるものがあっても良いのではと思う。

- ・ (家族記載)レコード館のシアターで映画上映する等、高齢者が喜ぶので機会が増えると良い。
- ・ 年に複数回定期的に保健師が巡回してもらえたらよい。 例えば 80 歳以上の老人がいる世帯に。
- エキノコックスの検査もできれば5年ごとにできるようにしてほしい。
- ・ 病院受診に重ならない時は出席するようにしているが、時々忘れることがあるので声かけしてもらえると助かる。
- ・ 高齢になったら地域活動や町の事業に参加したいと思っていたが、病気(頭痛と耳鳴り)のため 難しくなってしまった。参加したくてもできない高齢者対策を。(難しいとは思うが)
- ・ 色々やっている様だが、広報等を見ると同じ参加者で固まっている。新たに入るのが難しいのかと思う。
- ・ 診療所、福祉関係のイベントにお世話になるが、親切丁寧に接していただき心よりお礼申し上げます。職員の方々の熱血指導に感動しました。
- ・温泉券・バス券など、いろいろ配慮して頂き良かった。

【支え合いに関すること】

- 草取りとガラス拭きができないので、代わりにやってくれる人がほしい。
- ・ 住民全員にお助けカードを渡す。人に親切やお手伝いし、やってもらった本人が認めたらポイントを1点カードにつける。子どもも大人もポイントがたまったら粗品か何か褒美がもらえる仕組みどうでしょう。
- 子どもが遠くにいるので、近所の人に見てもらったり話をしたりしている。
- ・ 1 人暮らしなので夜に何かあったらと心配。日中は近所の方が声かけしてくれ安心して暮らせている。最近スマホを子ども達に持たされ少しマスターできています。住まいが道路の近くなので寄っていただけて嬉しく思っています。
- ・ 両親と 3 人暮らしだが、自分が病気などで家事ができなくなると、両親の世話を誰がするのかと 不安がある。隣町に住む娘や嫁が手伝ってはくれるが、長期間は難しいと思う。介護保険のサービス(主にヘルパー)は、自分が元気な時は必要ないので受ける気はない。困った時だけ利用できる便利なサービスがあると良い。

【新型コロナウイルスに関すること】

- この1ヵ月間は新型コロナウイルスの件があり、アンケートに対しこの様な答えしか出せなかった。
- ・マスクが手に入らない。薬局に行ってもいつも買えない。できれば町の方で年配者に配ってもらえないか。
- ・ 新型コロナウイルス感染症に関しての国の施策、例えば「所得減世帯への給付」等の申告方法を分かりやすく町民に知らせると共に、相談にのって欲しい。申告用紙に記載例を書いてほしい。
- ・ 新型コロナウイルスで施設の利用、集合の自粛等で家にいることが多くなり、いかに人と会うことが大切かと思った。体の健康も大事だが精神的なストレスの解消も大切だと思う。
- 新型コロナウイルスについての受診相談窓口が他の町。この町に相談窓口がないのかと不安。
- マスクや消毒液が欲しいのに買えない。

【財産管理等に関すること】

- ・ 頼れる人がなく、もし入院でもすると付き添いの人がおらず心配。 預金の出し入れやその他の 色々なことで、成年後見制度のことも考えているが、どうするか悩んでいる。
- ・ 少しでも長く自宅で過ごしたいと思っているが、持ち家なので、その後の自宅の処理をどうしようかと考えることがある。中古住宅の問題を考えてほしいです。
- ・将来的に、自宅の空き家対策が不安。

【自身の体調に関すること】

- ・ すべり症や圧迫骨折で膝も曲がらず、何一つできなくなり、自分で腹が立ってイライラし暗くなったりする。でも、息子も嫁も良くしてくれるので助かる。町内に住む友達も良くしてもらっている。杖なしには歩けないが、毎日少しずつ歩くようにしている。手に力もなくなったが、頑張っている。
- ・ 右肩が脱臼するため体操やゲートボール等できないし文字も書けなくなったが、毎日少々 (2500~4000 歩)だが歩いており、週3回温泉にも行っているので、とても楽しいです。
- ・90歳を過ぎ、体力低下、記憶力の低下を感じ、行動も自宅内のみになっているが、50代で始めた短歌のおかげで退屈せず過ごせている。近くの友人とも電話で話している。
- ・ 忘れごとが増え、歩くのも不自由になったが、自分のこと(ごはん作り、買物、受診)は何とかやるようにしている。

【サークル等の集まりに関すること】

- ・子どもや昔のことの自慢話をしない、同じ話を繰り返さない、中途半端な論理を他人に押し付けない、新しい考えや情報を受け入れる・・・様なサークルがあれば参加してみたい。
- ・ 高齢者がいつでも集まれる団欒の場所を作ってほしい。地区ではなく。
- ・老人クラブや各種団体で役員の担い手が減っている。加齢による体力低下と老々介護とで自分も負担となってきている。役場OBに依頼するが、よい返事がなく困っている。個人的に頼めば団体からも抜けると言われ、相談すれば任意団体なので解散できると言われたが、そうはできないので大変。

【調査に関すること】

- まだ、5年くらいはこの調査書は欲しくない。
- ・1世帯に対象者が複数名いる場合はまとめて送付すべき。
- ・前回のアンケートから何の変化があったか疑問。自分には何の連絡もない。
- ・3年前の調査については公表されているのか。回答した者としては回答率や個々の内容についてどの様な状況にあるのか知りたい。結果が、どのように保健福祉行政に活かされ、フィードバックされるか示すことが求められていると思う。アンケート内容には、個人に対し踏み込んだものが多く、無記名の場合どう対応し事業に反映するかが不明。アンケート結果を公表すると同時に、相談窓口についての適切な案内を示してほしいと思う。絵に描いた餅にならないよう、アンケートの声を一つ一つ大切にしていただきたいと思う。
- 集計など後始末が大変だろうが、自分の老化の傾向を知ったり反省できて良かった。

【町に対する意見感想】

- 大変良くしてくれ、新冠町に住むことにしてよかったと思う。
- とても気配りが行きとどいている。
- お世話になっています。ありがとうございます。
- いつも気を配って下さり感謝している。今後もよろしくお願いします。
- ・ 私達高齢者にいつも心配をいただき感謝している。これからも皆様にご迷惑をかけないように、 日々、身体に注意し、これからも頑張りたいと思う。よろしくお願いします。

- これからもよろしくお願い致します。
- ・ (家族記載) いつもお世話になっています。人懐っこすぎて、マイペースでご迷惑をかけていると思いますが、気長に見守っていただいて感謝しています。右手の指がないのでペットボトルのフタを空けられなくなってきたこと以外は普通です。一日置きくらいに新冠温泉の朝風呂に連れて行っています。一緒に買い物をしたり、ランチをしたり、その際に、社会福祉協議会の方の話や行事のことを話しています。役を与えてくださり感謝しています。カレンダーに丸印を付けて前向きな気持ちになっています。静内に連れて行かず新冠に置いておいてよかったなと思っています。本人もそう言っています。ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。逆に何かご迷惑おかけしていることがあれば言って下さい。
- ・日ごろお世話になっていてありがたく思います。細かい所にも配慮してもらって心強く感じます。 今は自分のことは大抵できますが、先のことは分からない。先日は新型コロナウイルスのことで訪ねていただきました。現代は休日祝日の多い時代です。休みの時に困ったことや相談したいことがあったらどうしようかと考えます。電話で話ができたり訪ねて下さる人がいて、他者と会話できるのは嬉しいことです。一人暮らしは元気でいても時には体調が悪く落ち込んで心細い気分になります。今後とも見守って下さり支えて下さいますよう願っています。
- ・ 当町は高齢者への施策は大変充実していると感じるが、私達がそれらに参加したりする意欲があるかないか、私もその1人ではありますが・・・いろいろ恵まれている様に思います。外に目を向けてたくさんの高齢者と意見を交わしたりする気持ちを持ちたいと思います。保健福祉、介護等、充実し、今のところ私としては直接お世話になっておりませんが近い将来必ずやお世話いただくことでしょう。その時にはご相談にのっていただいたりご指導を受けたりお願いしなければなりません。高齢者への福祉施策、今のまま続けていただけるよう希望します。
- ・ 昨年末に新冠町に転居しました。町内の事はまだ分かりませんので今後共よろしくお願いいたします。
- これからも色々とお世話かけると思うがよろしくお願いします。自分もできるだけ頑張ります。
- ・現在はさほど不自由な点はありません。今のところ、自由に身動きも取れており、山に海にと季節毎に楽しんで生活しております。今後また何か不安が生じたときにはよろしくご指導、ご支援いただけますようお願いいたします。
- ・ 近くに家族がいますが優しくはありません。これも私に自立をさせるためと思っています。とにかく甘えや依頼心があると、つい不満も出ます。年々不安は募りますが、できる限り頑張ります。おかしいと思ったら、家族に連絡して下さい。
- 新冠町は保健福祉課の皆さんとても対応がよくて相談しやすいです。

- ・新冠に定住して3年半。定年を4年残して退職し、自分のためだけにこの時間をと思い、数か所の市町村を巡りこの地を終息の地と決めました。町政も変わり高齢者にも、とても住みやすくなったと聞いています。町の病院も行きやすくなり安心のひとつです。この町にどっぷりいてはわからないこと、良さも含めたくさんあると思います。こまやかな福祉施策にも感謝です。レコード館は幼い頃レコードをかけて楽しんだ電気蓄音機。我が家にあったのと同じようなのがあり、懐かしく眺めたりします。兄姉共に20歳前後離れて育ち、小さい頃は恵まれて育ちましたが、その兄達も逝ってしまい、友人も子ども達に引き取られ健康長寿が本当に幸せかと考えてしまいます。
- ・ 高齢者の幸せは町の元気そのもの。担当課の皆さんの奮闘を期待している。

【その他のこと】

- 共同のお墓を作ってほしい。
- 散歩中常に思うこと。所々に椅子を設置してほしい。
- ・ 若い時にはお年寄りの気持ちが分からないで過ごしていたが、「歳をとるとはこういうことなのか」 と思い、自分を知ることが必要と感じている。今の自分を楽しく、家族に迷惑をできるだけかけない 様に、忙しかった時はできなかったことをしながら、充実した日々を送りたいと思っている。
- ・ 仕事を切られ生活に困っている。
- ・ 家の周りの側溝が詰まり水が流れているか分からないし、どこが管理しているかも分からない。
- ・ 前回のアンケート結果を受けて、憩いの家の祝祭日の開設が実施されたと思うが、月曜日の利用者が少ないように思う。健康ダンスの会は行うことにしているが、カラオケーサークルは休んでいる。これまでの使用状況を見て今後について検討してはどうか。月曜日は祭日が多いと思う。
- ・町への要望は、この奥地に宗教を問わない合葬墓を建立することです。道内の人は安く、町内の人はより安価に、納骨の時には一時金のみにし、道外の人には100万単位で納めてもらい合同慰霊祭は8月15日のみとする。広く公募すれば太平洋を望む素晴らしいホテルもあり高速もでき自然豊かな牧場ツアーバスなど、新冠町は全国に知れます。30年ほど前に海洋散骨が認可されましたが、私はそれに決めています。残された墓の管理維持は大変です。

新冠町民憲章: 昭和51年9月28日制定

わたくしたちは、日高の秀峰幌尻岳をのぞみ、緑ゆたかな大地と、茫洋たる 太平洋にはぐくまれた新冠の町民です。

わたくしたちは、先人の開拓精神を受けつぎ、たくましく未来に向って躍進 する住みよいまちをつくるため、この憲章を定め、実行します。

1. いつも、丈夫なからだをつくり、いきいきと働く町にします。

1. いつも、明るいあいさつをかわし、きまりを守る町にします。

1. いつも、たがいにはげまし合い、助け合う町にします。

1.いつも、すすんで学び、文化の高い町にします。

1.いつも、まわりを美しくし、自然を大切にする町にします。

第8期 新冠町高齢者保健福祉計画

令和3年(2021年)3月発行

発 行 : 新冠町

編 集 : 新冠町 保健福祉課 介護支援係

新冠郡新冠町字北星町3番地の2

TEL 0146-47-2113 (直通)

FAX 0146-47-2496